

保存版

令和8年産米 重点技術対策書

令和8年(2026)

JA冬期懇談会資料

持続可能な農業経営に向けて



アルプス農業協同組合・アルプス地域営農対策委員会

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

事業取扱高の状況

令和7年12月末の主要事業取扱高について、貯金残高は961億円で前年同月末101%、貸出金残高は120億円で99%となっております。

長期共済新契約高は12月末で38億円、前年同月末対比91%であり、共済保有高は1,999億円、前年同月末対比95%となっております。

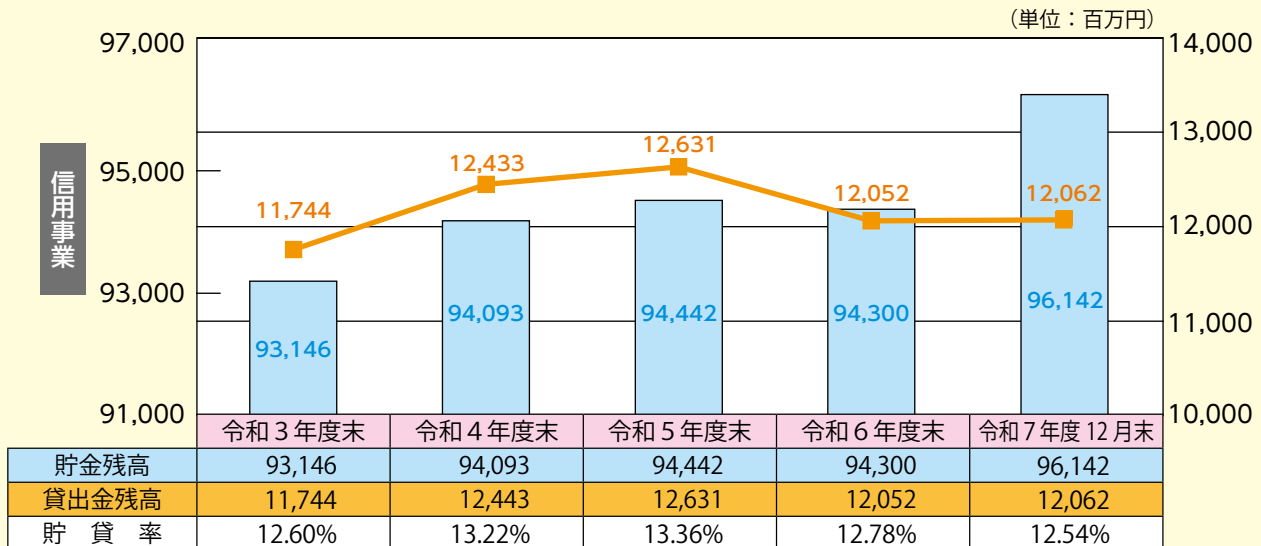
購買品供給高では12月末で35億円と前年同月末比で107%、令和7年度計画39億円に対して進捗率89%です。また販売品販売高は12月末では56億円と前年同月末対比143%、作況単収指数は99となっております。

当農協はいかなる環境下であっても、組合員の皆様のニーズに的確にお応えできるよう取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力を宜しくお願い致します。尚、主要事業別の概要は、以下のとおりです。

ア. 信用事業

信用事業については、組合員や利用者の農業・くらし・地域領域の多様なニーズに対して、総合事業性を活かした金融仲介機能を発揮し、支持・期待されるJAを目指した取り組みを行っております。貯金残高は、12月末時点で前年度末より増加し、96,142百万円となっております。貸出につきましては、Webでの申し込み受付を普及させ、利便性向上に努めております。12月末では貸出新規件数は81件、残高は12,062百万円となっております。

さらなる利便性向上のためJAバンクアプリ・アプリプラスの普及、また資産形成取引として投資信託の伸長に努めてまいります。

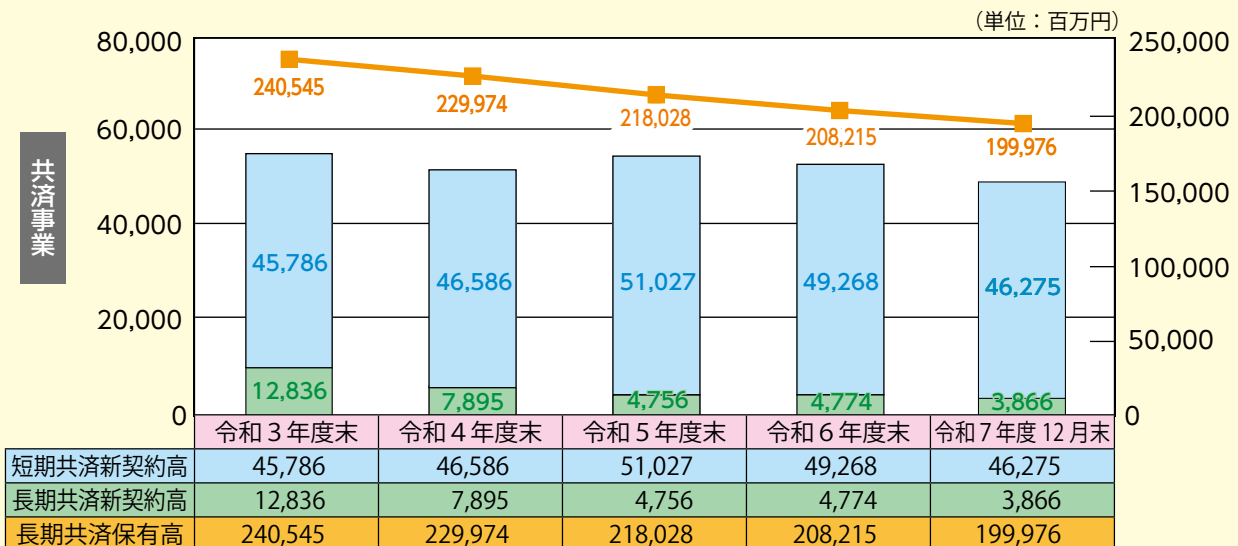


イ. 共済事業

共済事業については、「相互扶助」を理念に「ひと・いえ・くるま・農業の総合保障」の提供を通じて、組合員・利用者の皆様が豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりを目指した取り組みを行っております。

12月末時点では長期共済新契約高は3,866百万円、自動車共済を中心とした短期共済新契約をあわせた実績は50,141百万円となっております。

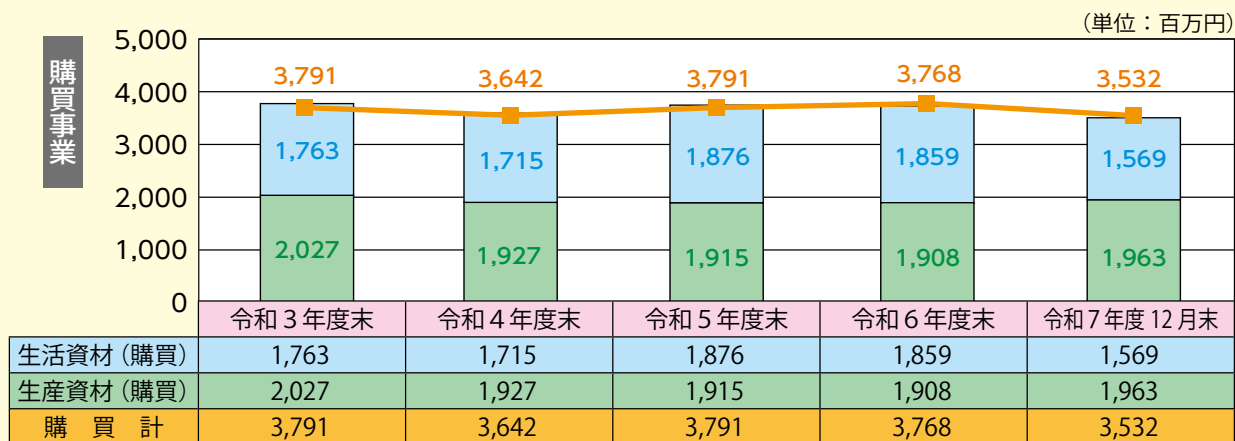
今後もより一層組合員・利用者の皆さまに安心と満足を届けられるJA共済の普及に努めてまいります。



ウ. 購買事業

購買品供給高については、12月末現在で前年同月末対比 107%と推移しております。今年度末計画額に対し 89%の進捗であり、内訳として生産資材は前年同月末対比 110%、生活関連については 102%となっております。生産コストを抑えながら、安定供給の確立を進めるために予約注文の向上にご協力ください。

今後とも、組合員の皆様からの予約注文に基づき、生産資材の確保と価格の抑制に努めてまいります。



エ. その他事業

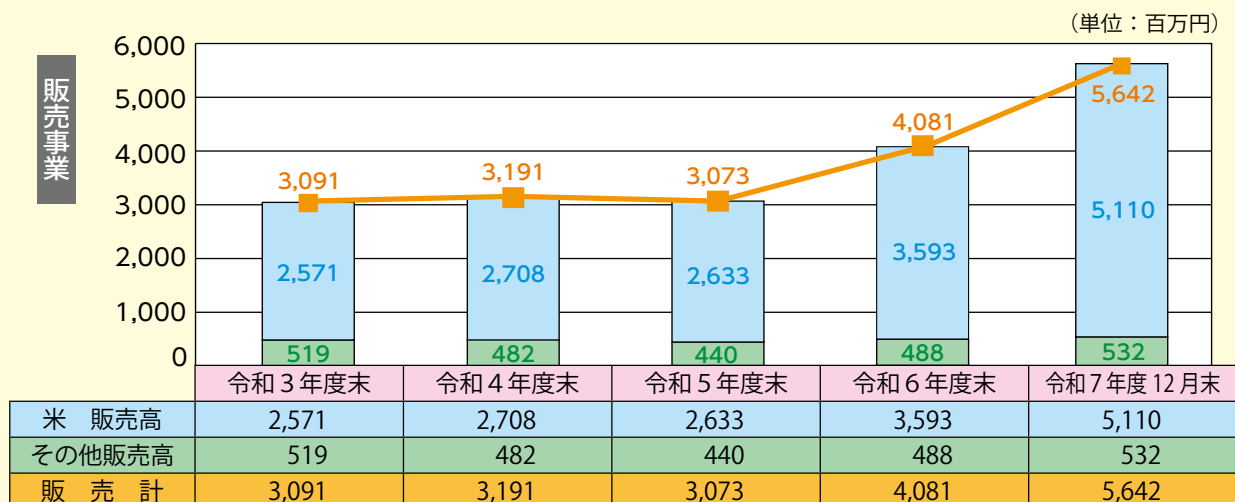
生活・文化事業では、豊かで暮らしやすい地域社会の実現に向けて、生活文化活動、健康管理活動や高齢者支援など組合員の皆様のニーズに応えられるよう努めてまいります。

当農協ではイベントやキャンペーンなど、幅広い情報の発信をSNS(Instagram、LINE等)で発信しております。画像や動画で楽しんでいただける内容も多く配信しておりますので、ぜひご登録ください。

オ. 販売事業

当農協の主力販売品である米については、作況単収指数が 99(富山県)となりました。うるち米1等米比率は県内平均 86%台で当農協は 90%と、県内平均を上回る成績でしたが、目標としていた 94%には届きませんでした。

販売高総計は近年の米価格の上昇により 1,747 百万円の増加となる見込みです。また、その他販売高のうち野菜は 93 百万円となり前年同月より 30 百万円の減少となっております。





2 アルプス農業協同組合からのお知らせ

令和7年産アルプス米の12月9日現在の1等比率は、90.4%（前年93.1%）となり、前年をやや下回る結果となりました。要因としては、6月から7月かけての異常高温と少雨により渇水被害がみられたことによるものです。しかしながら、生育ステージに応じた水管理、追加穂肥の施用により稲体の活力が維持され登熟が向上し、品質の向上につながりました。米の作況単収指数は99（富山県：前年99）となりました。出荷数量は**160,559俵（前年末160,753俵）**と前年並となりました。

令和8年産の重点対策ポイントは、①5月15日中心の田植えに合わせた育苗作業、②紋枯病防止のための苗箱施薬の徹底、③初期茎数の確保、④生育ステージに応じた水管理、⑤適期2回（早生3回）防除の徹底、⑥適期刈取り、⑦土壌改良資材の施用の実勢により、引き続き異常気象に打ち勝つ米づくり対策を継続して、品質と収量の向上に取り組みます。

米の成分分析は、583点のサンプルを提供いただき、食味分析と品質分析を実施しました。この結果を生産者にフィードバックして、次年度以降も米の栽培管理に活用いただき、引き続き良品米の生産地としての地位確立に努めてまいります。

基幹作物である大麦は、**出荷数量632トン（前年755トン）、大豆は出荷数量258トン（前年283トン）**となりました。次年度対策として、排水対策を主に適期防除、適期収穫の基本作業をすすめます。

園芸品目は、「稼げる経営体・産地づくり」をめざしリーディング経営体の育成と産地体制整備、地域振興品目「白ネギ」「さといも」、水田園芸拡大品目「たまねぎ」「にんじん」の積極的な生産拡大と品質と収量の向上に取り組んでまいります。

●令和8年度のJAアルプス重点目標●

- 「持続可能な農業の実現」に向けて、「需用に応じた米の安定生産」を推進します。
- 「農業者の所得向上」に向けて、「水田フル活用」を推進します。
- 「稼げる経営体・産地づくり」に向けて、「農業経営の複合化」を推進します。

●JAアルプスの自己改革●

JAアルプスでは組合員との対話に基づいて【農業所得の拡大】・【地域の活性化】に取り組んでいます。

事業活動によるお宅訪問時や、農事懇談会、事業報告説明会など様々な接点を通して、みなさんが日々の生活の中で感じている悩みやJAへの意見・要望等を私たちがキャッチして今後の事業運営に反映させていただきます。

この活動により、みなさんにとって今よりももっと身近で地域に根付いたJAをめざしてまいります。

3 令和8年産米の生産目標参考値について

人口減少による主食用米の需要量の減少や地球温暖化等の気候変動に伴う品質・収量の低下リスクなど農業経営と取り巻く環境が一層厳しさを増すなか、今後も需要に応じた米生産に取り組むことが重要であり、引き続き生産者、農業団体、行政等が一体となって需給調整に取り組んでいくことが必要です。

国のコメ需給動向を踏まえ、富山県では生産目標を186,016.375トン（前年比9,882.4トン増）、面積換算34,000ヘクタール（前年比1,800ヘクタール増）となりました。

アルプス農業協同組合管内においては生産目標を23,541.449トン（前年比1,398.9トン増）、面積換算ヘクタール（前年比264ヘクタール増）となりました。

今後は主食用米生産目標の確実な作付けと非主食用米や大豆、園芸作物等の作付けにより生産調整を着実に進めていきますので、生産者のみなさまの協力をお願いします。

区 分	令和8年産米		令和7年産米		前年産との比較	
	生産目標	面積換算値	生産目標	面積換算値	数量増減	増減率
	(t)	(ha)	(t)	(ha)	(t)	(%)
富山県	186,016	34,000	176,134	32,200	9,882	5.61

市町村名	生産目標	面積換算値	生産目標	面積換算値	数量増減	増減率
	(kg)	(ha)	(kg)	(ha)	(kg)	(%)
滑川市	7,011,465	1,300	6,630,281	1,230	381,184	5.75
舟橋村	659,617	120	611,406	111	48,211	7.89
上市町	5,108,326	970	4,795,519	910	312,807	6.52
立山町	10,762,041	2,025	10,105,299	1,900	656,742	6.50
J Aアルプス管内	23,541,449	4,415	22,142,505	4,151	1,398,944	6.32

※面積換算値については、地域単収の設定により合致しない場合があります。

水田フル活用と不作付地の解消に向けて

需要に応じた米生産に取り組む中、実需者から評価の高い大豆は安定生産、大麦は需要に応じた計画生産を図ります。非主食用米は、需要量や生産意向を踏まえ、需要に応じた生産を図ります。園芸作物は、「稼げる経営体・産地プラン」をめざし積極的な生産拡大を図ります。

アルプス農業協同組合管内の不作付地（保全管理や調整水田等）は、7年度540ヘクタールあります。不作付地は、早急に解消するために、非主食用米や地力増進作物等の作付けや、麦あと不作地の有効活用等を、地域の生産者のみなさまと改善に取り組んでまいります。

4 直近の主穀作物価格

米穀価格 (60kg)

(出荷契約米)

(紙袋、円、消費税込)

年産	種類	銘柄	等級	概算金 A	追加概算金 B	仮精算金 C	共計精算 D	支払合計 E		
令和7年産	うるち米	コシヒカリ	1	26,000				E = A+B+C+D		
			2	24,700				26,000		
			3	23,700				24,700		
			富富富	1	26,800				23,700	
				2	24,700				26,800	
				3	23,700				24,700	
			てんたかく	1	26,000				23,700	
				2	24,700				26,000	
				3	23,700				24,700	
		てんこもり	1	26,000				23,700		
			2	24,700				26,000		
			3	23,700				24,700		
		もち米	新大正糯	1	28,000				23,700	
				2	27,400				28,000	
				3	26,400				27,400	
その他	1		27,200				26,400			
	2		26,600				27,200			
	3		25,600				26,600			
令和6年産	うるち米	種類	買入時振込		R6.12.24	R7.7.30		E = A+B+C+D		
			コシヒカリ	1	16,000	4,100	3,100		23,200	
				2	14,700	4,100	3,100		21,900	
				3	13,700	4,100	3,100		20,900	
				富富富	1	16,800	4,100	3,100		24,000
					2	14,700	4,100	3,100		21,900
					3	13,700	4,100	3,100		20,900
				てんたかく	1	15,100	4,100	3,100		22,300
					2	13,800	4,100	3,100		21,000
					3	12,800	4,100	3,100		20,000
			てんこもり	1	15,100	4,100	3,100		22,300	
				2	13,800	4,100	3,100		21,000	
				3	12,800	4,100	3,100		20,000	
			もち米	新大正糯	1	16,500	500			17,000
					2	15,900	500			16,400
3	14,900	500					15,400			
その他	1	15,700		500			16,200			
	2	15,100		500			15,600			
	3	14,100		500			14,600			

(加工用米・備蓄米共同計算)

(紙袋、円、消費税込)

年産	種類	等級	概算金 A	加工用米のみ取組のため 共同計算なし	追加概算金 B	仮精算金 C	共計精算 D	支払合計 E	
令和7年産	加工用米	買入時振込						E=A+B+C+D	
		1	20,000					20,000	
		2	19,400					19,400	
		3	18,400					18,400	
令和6年産	加工用米	種類	等級	概算金 A	水田活用交付金 B (20,000円/10a)	追加概算金 C	仮精算金 D	共計精算 E	支払合計 F
		買入時振込			R6.12.20	R7.1.28	R7.4.8		F=A+B+C+D+E
		1	7,752	2,248	737	1,399		12,136	
		2	7,428	2,248	737	1,399		11,812	
		3	6,348	2,248	737	1,399		10,732	
		備蓄米	1	10,000		737	1,399		12,136
			2	9,676		737	1,399		11,812
			3	8,596		737	1,399		10,732

大豆価格 (60kg)

(円、消費税込)

年産	品種	等級	粒別	概算金 A	共計精算 B	支払合計 C	
令和7年産				買入時振込		$C = A + B$	
	エンレイ	特定加工	大粒	5,400		5,400	
			中粒	5,400		5,400	
			小粒	5,400		5,400	
	シュウレイ	特定加工	大粒	5,400		5,400	
			中粒	5,400		5,400	
小粒			5,400		5,400		
令和6年産				買入時振込	R8.1.8	$C = A + B$	
	エンレイ	3等	大粒	5,580	3,045	8,625	
		特定加工	大粒	5,340	3,045	8,385	
			中粒	5,340	2,793	8,133	
			小粒	5,340	2,157	7,497	
	シュウレイ	特定加工	大粒	5,340	2,991	8,331	
			中粒	5,340	2,739	8,079	
			小粒	5,340	2,103	7,443	
						買入時振込	R6.12.24
令和5年産			エンレイ	特定加工	大粒	5,860	2,752
	中粒	5,860			2,582	8,442	
	小粒	5,860			1,816	7,676	
	シュウレイ	特定加工	大粒	5,860	2,631	8,491	
			中粒	5,860	2,461	8,321	
			小粒	5,860	1,697	7,557	

※円未満は、切り捨てして表示しています。

大麦価格 (50kg)

(ファイバースノウ)

(円、消費税込)

年産	等級	概算金 A	追加概算金 B	最終手取額
令和7年産		買入時振込		$C = A + B$
	1	800		800
令和6年産		買入時振込	R7.12.24	$C = A + B$
	1	500	241	741
令和5年産		買入時振込	R6.12.25	$C = A + B$
	1	800	124	924

※円未満は、切り捨てして表示しています。

5 令和7年産アルプス米の特徴

(1) 米検査成績 (令和7年12月9日現在)

(ア) うるち米全体

- 令和7年12月9日現在のうるち玄米1等比率（加工用米含む）は90.4%で、主な格落要因の発生率は、部分カメ4.6%、部分・他（くさび米）2.8% 除青未熟1.6%となりました（表1）。
- また、コシヒカリの1等比率は87.0%となりました（表1、図1）。

表1 R7年産うるち玄米の品種別1等比率と主な格落要因（令和7年12月9日現在）

品種名	1等比率 (%)	主な格落要因			【参考※】 富山県の 1等比率 (%)
		1位	2位	3位	
コシヒカリ	87.0	部分カメ	部分・他	除青未熟	84.5
富富富	97.2	胴割粒	部分カメ	除青未熟	96.1
てんたかく	94.7	部分カメ	除青未熟	胴割粒	93.7
てんこもり	95.8	部分カメ	もみ混入	除青未熟	95.7
ゆうだい21	95.8	部分・他	部分カメ	—	85.1
うるち全体	90.4				86.9

※「富山県の1等比率 (%)」値は農水省公表値 (R7/10/31 現在)

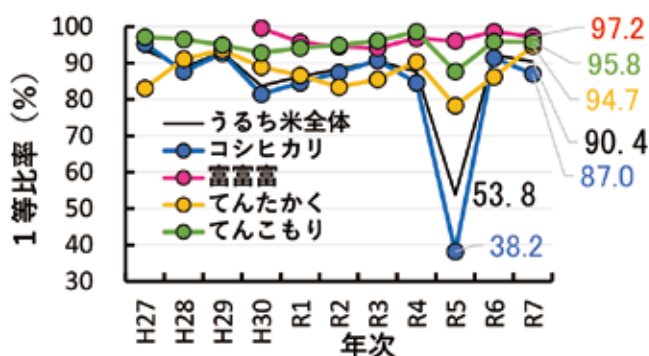
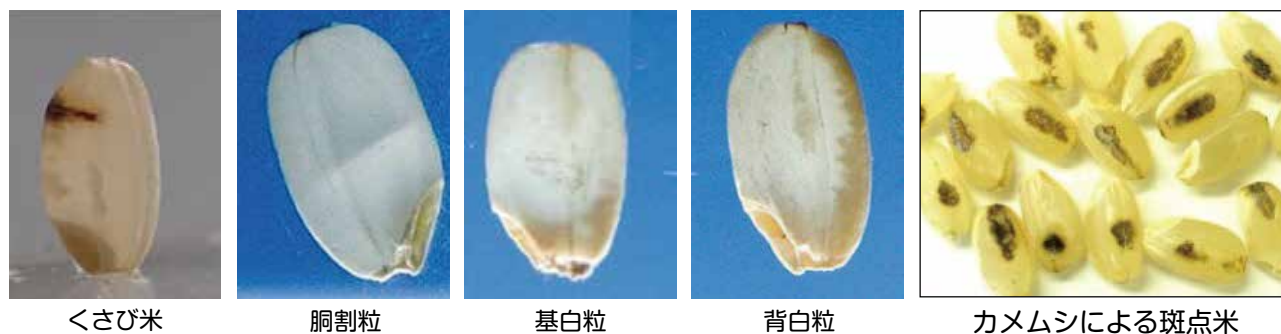


図1 品種別1等比率の推移
※H27～R6は3/31時点、R7は12/9時点

(参考) R7年産うるち玄米の地域別品種別1等比率 (令和7年12月9日現在)

品種名	地域別の1等比率 (%)				
	立山	舟橋	上市	滑川	JA計
コシヒカリ	92.1	82.0	81.6	84.9	87.0
富富富	99.1	94.2	97.1	94.6	97.2
てんたかく	92.5	95.2	87.0	98.6	94.7
てんこもり	95.2	100.0	88.1	97.7	95.8
ゆうだい21	—	—	98.4	90.3	95.8
うるち全体	93.7	89.7	85.7	89.6	90.4

(イ) コシヒカリの検査成績と格下要因

○1等比率について

- ・1等比率は87.0%となり、昨年同時期より低くなった。

○2等・3等比率について

- ・格下げの主要因は部分カメが6.0%で、昨年より低くなった。
- ・部分・他による格下げ要因が4.3%で、高くなった。
- ・一部で不適切な乾燥調製で発生するもみ混入による格下げがみられた。

表2 各地区の1等比率と格下要因比率

(令和7年12月9日現在)

市町村	地区	出荷数量 (俵)	1等 (俵)	比率(%)								
				1等	2等・3等		内訳					
					青未熟粒	除青未熟	心白粒	胴割粒	部分カメ	部分・他	もみ混入	
立山町	立山	2,447.5	2,339.0	95.6	4.4	1.3	2.4			0.7		
	上段	3,548.0	3,294.0	92.8	7.2	0.6	0.7	0.6		0.3	5.0	
	東谷	2,454.0	2,193.0	89.4	10.6						4.3	
	利田	5,607.0	5,428.5	96.8	3.2					0.5	2.1	
	大森	3,944.0	3,879.0	98.4	1.6	0.9	0.5			0.2		
	高野	5,732.5	5,198.0	90.7	9.3					0.3	2.0	0.2
	五百石	5,054.5	4,546.0	89.9	10.1					1.0	0.6	
	下段	3,207.0	2,966.0	92.5	7.5					0.7	1.0	1.4
	釜ヶ淵	7,858.5	7,247.0	92.2	7.8	0.1	0.8			0.2	6.4	0.3
	新川	5,827.5	4,971.0	85.3	14.7					0.3	14.4	
	小計	45,680.5	42,061.5	92.1	7.9	0.2	2.9			0.4	4.2	0.2
舟橋村	小計	2,623.0	2,151.5	82.0	18.0		1.5			1.2	15.3	
上市町	本店	1,403.0	1,367.0	97.4	2.6		2.6					
	上市	4,315.0	3,908.0	90.6	9.4					9.1	0.3	
	大岩	197.0	166.5	84.5	15.5					15.5		
	宮川	5,951.5	3,757.0	63.1	36.9					33.8	3.1	
	白萩	1,053.0	797.5	75.7	24.3					20.3	4.0	
	南加積	5,580.0	4,393.5	78.7	21.3					18.8	2.5	
	相ノ木	4,116.0	3,933.0	95.6	4.4		1.3			3.1		
	柿沢	3,016.0	2,591.5	85.9	14.1					10.8	3.3	
	小計	25,631.5	20,914.0	81.6	18.4		0.4			16.2	1.8	
滑川市	山加積	2,790.5	2,622.0	94.0	6.0					6.0		
	中加積	5,341.0	3,901.5	73.0	27.0		8.1	1.2		3.0	14.7	
	西加積	3,342.0	2,176.0	65.1	34.9		0.8		0.7	14.5	18.5	0.4
	浜加積	8,266.5	6,222.5	75.3	24.7		2.2		1.1	15.6	5.8	
	東加積	5,780.0	5,360.0	92.7	7.3		2.6		1.5	3.2		
	早月加積	10,007.5	9,645.0	96.4	3.6		2.5				1.1	
	北加積※	4,942.5	4,445.0	89.9	10.1	0.1	4.4			3.2	2.4	
	小計	40,470.0	34,372.0	84.9	15.1		3.1	0.2	0.5	6.1	5.2	
総計		114,405.0	99,499.0	87.0	13.0	0.1	2.3	0.1	0.2	5.9	4.3	0.1

※北加積には柳原分を含む

(ウ) 富富富の検査成績と格下要因

○1等比率について

- 1等比率は97.2%となり、昨年同時期とほぼ同じとなった。

○2等・3等比率について

- 格下げの主要因は胴割粒が1.3%で、昨年より低くなった。
- 部分カメによる格下げ要因が1.2%で、高くなった。
- 一部地区で部分・他による格下げがみられた。

表3 各地区の1等比率と格下要因比率

(令和7年12月9日現在)

市町村	地区	出荷数量 (俵)	1等 (俵)	比率 (%)					
				1等	2等・3等	内訳			
						除青未熟	胴割粒	部分カメ	部分・他
立山町	立山	584.5	584.5	100.0	0.0				
	上段	1,495.5	1,495.5	100.0	0.0				
	東谷	297.0	297.0	100.0	0.0				
	利田	1,090.5	1,060.0	97.2	2.8		2.8		
	大森	580.0	580.0	100.0	0.0				
	高野	1,508.0	1,508.0	100.0	0.0				
	五百石	1,652.5	1,652.5	100.0	0.0				
	下段	2,397.5	2,316.5	96.6	3.4	3.4			
	釜ヶ淵	1,232.5	1,232.5	100.0	0.0				
	新川	2,183.5	2,183.5	100.0	0.0				
	小計	13,021.5	12,910.0	99.1	0.9	0.6	0.3		
舟橋村	小計	2,241.0	2,112.0	94.2	5.8			5.6	0.2
上市町	本店	1,587.0	1,587.0	100.0	0.0				
	上市	585.0	502.5	85.9	14.1			14.1	
	大岩	36.0	36.0	100.0	0.0				
	宮川	1,062.0	1,059.5	99.8	0.2			0.2	
	白萩	585.0	564.5	96.5	3.5			3.5	
	南加積	1,810.0	1,810.0	100.0	0.0				
	相ノ木	10.5	10.5	100.0	0.0				
	柿沢	509.0	437.0	85.9	14.1			14.1	
	小計	6,184.5	6,007.0	97.1	2.9			2.9	
滑川市	山加積	132.0	102.0	77.3	22.7				22.7
	中加積	954.5	954.5	100.0	0.0				
	西加積	99.0	99.0	100.0	0.0				
	浜加積	2,658.5	2,658.5	100.0	0.0				
	東加積	935.5	935.5	100.0	0.0				
	早月加積	1,254.5	917.0	73.1	26.9		26.9		
	北加積※	1,566.0	1,526.5	97.5	2.5			2.5	
		小計	7,600.0	7,193.0	94.6	5.4		4.5	0.5
総計		29,047.0	28,222.0	97.2	2.8	0.2	1.3	1.2	0.1

※北加積には柳原分を含む

(工) てんたかくの検査成績と格下要因

○1等比率について

- 1等比率は94.7%となり、昨年同時期よりかなり高くなった。

○2等・3等比率について

- 格下げの主要因は部分カメが3.6%で、昨年より低くなった。
- 胴割粒による格下げは0.8%となった。
- 一部地区で除青未熟による格下げがみられた。

表4 各地区の1等比率と格下要因比率

(令和7年12月9日現在)

市町村	地区	出荷数量 (俵)	1等 (俵)	比率 (%)					
				1等	2等・3等	内訳			
						除青未熟	胴割粒	部分カメ	部分・他
立山町	立山	206.5	206.5	100.0	0.0				
	上段	1,249.0	1,152.0	92.2	7.8	2.0	5.0	0.8	
	東谷	1,143.5	1,000.0	87.5	12.5		3.7	8.8	
	利田	942.5	912.0	96.8	3.2			3.2	
	大森	700.5	700.5	100.0	0.0				
	高野	461.0	320.5	69.5	30.5	4.9			25.6
	五百石	928.5	928.5	100.0	0.0				
	下段	456.0	373.5	81.9	18.1	16.0			2.1
	釜ヶ淵	149.0	130.0	87.2	12.8			12.8	
	新川	561.0	561.0	100.0	0.0				
	小計	6,797.5	6,284.5	92.5	7.5	1.8	1.8	3.9	
舟橋村	小計	611.0	581.5	95.2	4.8				4.8
上市町	本店	623.0	623.0	100.0	0.0				
	上市	377.5	348.0	92.2	7.8	1.0			6.8
	大岩	6.0	6.0	100.0	0.0				
	宮川	1,079.5	765.0	70.9	29.1	4.6			24.5
	白萩	89.0	64.0	71.9	28.1				28.1
	南加積	511.5	458.0	89.5	10.5				10.5
	相ノ木	71.5	71.5	100.0	0.0				
	柿沢	489.0	489.0	100.0	0.0				
	小計	3,247.0	2,824.5	87.0	13.0	1.7			11.3
滑川市	山加積	914.5	914.5	100.0	0.0				
	中加積	2,264.5	2,198.5	97.1	2.9				2.9
	西加積	60.0	18.0	30.0	70.0			70.0	
	浜加積	22.0	22.0	100.0	0.0				
	東加積	2,179.5	2,158.5	99.0	1.0				1.0
	早月加積	4,368.0	4,350.0	99.6	0.4	0.4			
	北加積※	340.0	340.0	100.0	0.0				
	小計	10,148.5	10,001.5	98.6	1.4	0.2	0.4	0.8	
総計		20,804.0	19,692.0	94.7	5.3	0.9	0.8	3.6	0.0

※北加積には柳原分を含む

(オ) てんこもりの検査成績と格下要因

○1等比率について

- 1等比率は95.8%となり、昨年同時期とほぼ同じとなった。

○2等・3等比率について

- 格下げの主要因は部分カメが3.4%で、昨年より低くなった。
- 部分・他による格下げ要因が0.1%みられた。
- 一部で不適切な乾燥調製で発生するもみ混入、肌ずれによる格下げがみられた。

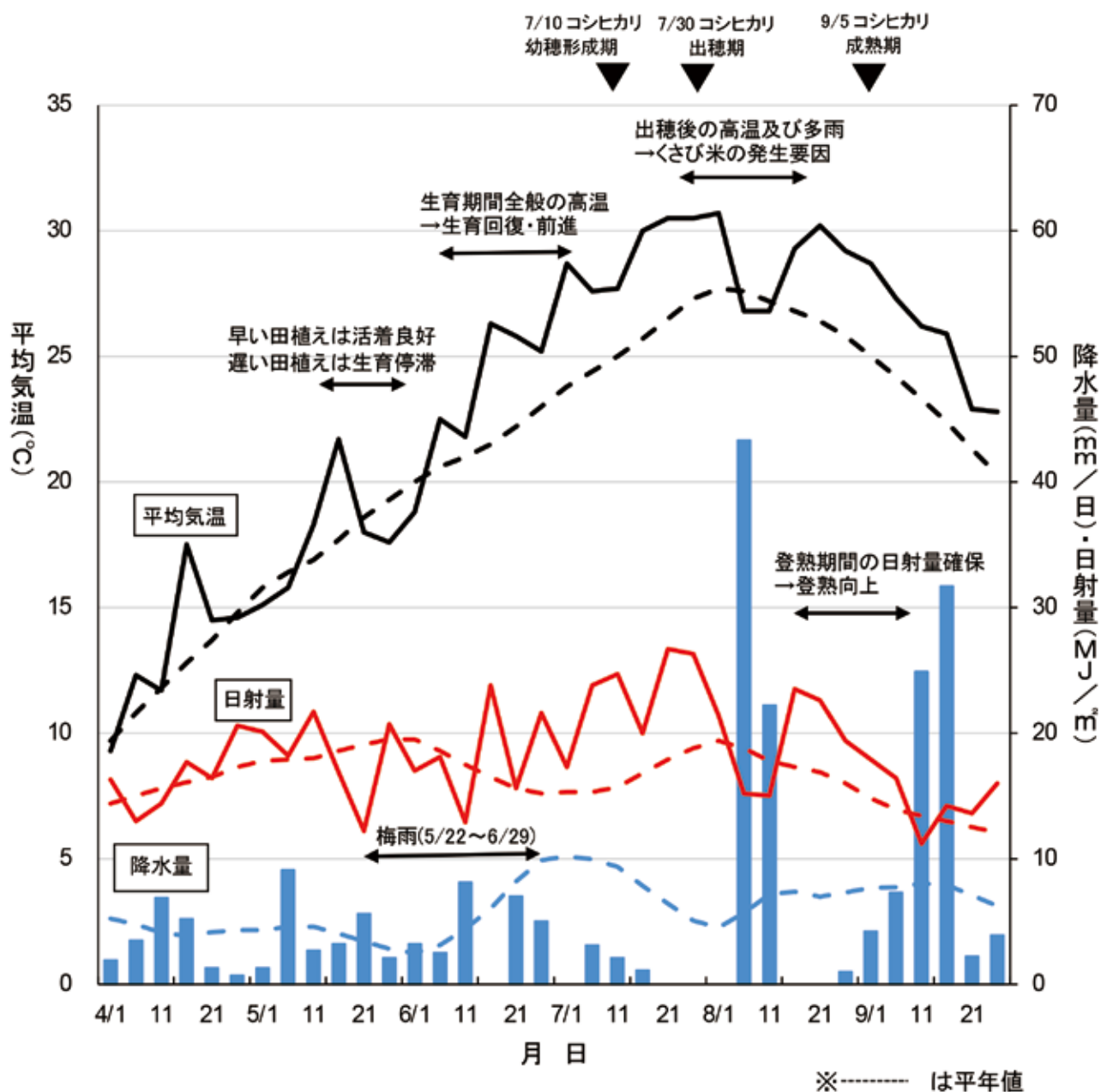
表5 各地区の1等比率と格下要因比率

(令和7年12月9日現在)

市町村	地区	出荷数量 (俵)	1等 (俵)	比率(%)						
				1等	2等・3等	内訳				
						除青未熟	肌ずれ	部分カメ	部分・他	もみ混入
立山町	立山									
	上段	728.5	728.5	100.0	0.0					
	東谷	69.5	65.5	94.2	5.8			5.8		
	利田	153.0	153.0	100.0	0.0					
	大森	880.5	880.5	100.0	0.0					
	高野	733.5	481.0	65.6	34.4			34.4		
	五百石	695.5	678.5	97.6	2.4					2.4
	下段	1,558.5	1,535.0	98.5	1.5	1.5				
	釜ヶ淵	689.5	689.5	100.0	0.0					
	新川	621.0	621.0	100.0	0.0					
小計	6,129.5	5,832.5	95.2	4.8	0.4		4.2		0.2	
舟橋村	小計	628.0	628.0	100.0	0.0					
上市町	本店									
	上市	23.5	0.0	0.0	100.0		100.0			
	大岩									
	宮川	873.0	715.0	81.9	18.1			18.1		
	白萩									
	南加積	166.0	166.0	100.0	0.0					
	相ノ木	473.0	451.0	95.3	4.7				4.7	
	柿沢	173.0	173.0	100.0	0.0					
小計	1,708.5	1,505.0	88.1	11.9		1.4	9.2	1.3		
滑川市	山加積	204.0	204.0	100.0	0.0					
	中加積	1,820.0	1,820.0	100.0	0.0					
	西加積	302.0	259.0	85.8	14.2					14.2
	浜加積	863.0	781.5	90.6	9.4			9.4		
	東加積	1,648.5	1,648.5	100.0	0.0					
	早月加積	1,845.0	1,793.0	97.2	2.8			2.8		
	北加積※	895.5	895.5	100.0	0.0					
	小計	7,578.0	7,401.5	97.7	2.3			1.8		0.5
総計	16,044.0	15,367.0	95.8	4.2	0.1	0.1	3.4	0.2	0.4	

※北加積には柳原分を含む

(2) 気象経過 (富山地方気象台)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月
気温	やや高い	平年並	高い	かなり高い	高い	かなり高い
降水量	かなり少ない	平年並	かなり少ない	かなり少ない	かなり少ない	かなり少ない
〈気温〉						
平均気温	13.3℃	17.7℃	23.4℃	29.2℃	28.8℃	25.6℃
平年比 (℃)	+ 1.0	+ 0.2	+ 2.0	+ 3.7	+ 1.9	+ 2.8
〈降水量〉						
総降水量	97.5mm	122.0mm	129.0mm	31.5mm	333.5mm	371.0mm
平年比 (%)	73%	99%	75%	13%	161%	170%
〈全天日射量〉						
平均日射量	16.4MJ/m ²	18.4MJ/m ²	18.2 MJ/m ²	23.2MJ/m ²	19.5MJ/m ²	14.9MJ/m ²
平年比 (%)	103%	100%	105%	140%	110%	112%

(3) 生育経過と収量・品質（アルプス標準田）

(ア) コシヒカリ

①生育経過

幼穂形成期は平年並の7月10日、**出穂期は平年より1日早い7月30日**、**成熟期は平年より2日早い9月5日**となりました。

5月中旬は順調に茎数が増加しましたが、5月下旬から6月上旬は低温・低日射となったため、茎数増加は緩慢となり、**最高茎数は平年より少なくなりました**。6月中旬以降はかなり高温で、降雨が殆どなかったことから、幼穂形成期頃の葉色は平年よりかなり淡くなりましたが、**こまめな入水や必要に応じて追肥を行ったことにより、葉色は回復し、穂数は平年並**となりました。（図1、2）。

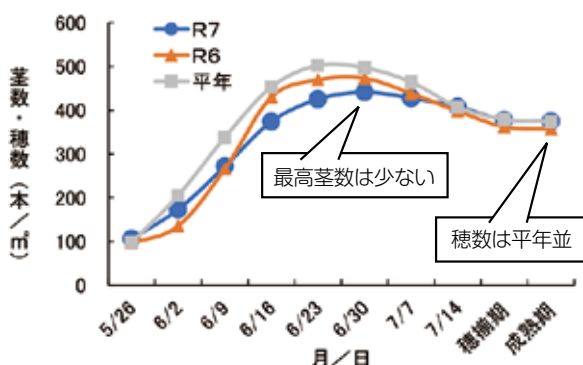


図1 茎数・穂数の推移 ※平年は H27 年～ R6 年の平均値

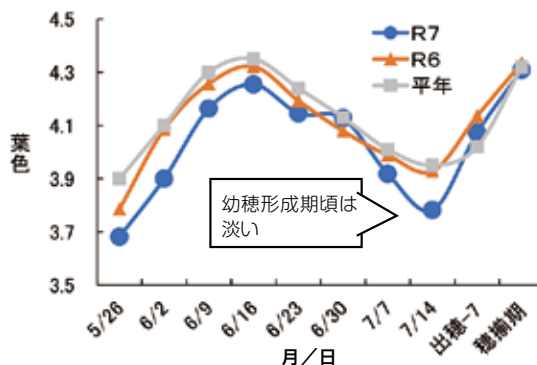


図2 群落葉色の推移

②収量及び収量構成要素

平年に比べ、穂数は平年並、**1穂粉数は多くなったことから、m²当たり粉数は多くなりました**。千粒重は平年並となったが、**登熟歩合はやや低かったため、精玄米重は562kg/10aと平年並**となりました（表1）。

表1 収量及び収量構成要素

(%)

年度	収量構成要素					
	精玄米重 (kg/10a)	穂数 (本/m²)	1穂粉数 (粒/穂)	m²当粉数 (粒/m²)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)
R7	562	375	81.2	30,400	22.7	81.9
R6	524	357	73.8	26,300	23.0	87.7
平年	549	373	76.9	28,600	22.6	85.9
平年比	並	並	多い	多い	並	やや低い

③品質及び食味関連形質

整粒歩合(肉眼調査)は平年並となりました。基白、背白粒の発生は平年よりやや多くなりました。**玄米蛋白含有率は平年よりやや低く**なりました（表2）。

表2 品質及び食味関連要素

(%)

年度	肉眼調査					ES-V 整粒	玄米蛋白 含有率
	整粒	基背白	乳心白	青未熟	その他		
R7	70.3	15.2	9.3	3.1	2.1	74.0	6.0
R6	76.4	12.6	7.7	1.4	1.7	71.5	6.2
平年	72.5	12.7	9.6	1.9	3.3	70.5	6.0
平年比	-2.2	2.4	-0.3	1.2	-1.2	3.5	0.0

※玄米蛋白含有率は、水分15%の値

測定器は H29 までインフラライザー、H30 から静岡製機・食味分析計 SRE

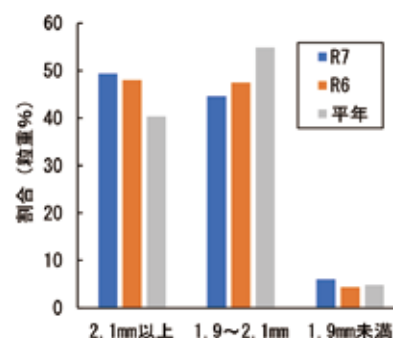


図3 粒厚分布

(イ) 富富富

①生育経過

5月下旬頃は日射量が少なく、5月15日以降に移植した圃場で初期生育に遅れがみられました。
幼穂形成期は近年より1日遅い7月12日、出穂期は近年より1日早い8月1日、成熟期は近年より1日遅い9月12日となりました。

茎数は少なく推移し、最高茎数は少なくなったものの、穂数は近年並みとなりました(図1)。
 葉色は6月中旬以降低く推移したものの、穂揃期(葉齢14L頃)には4.4と近年並みとなりました(図2)。

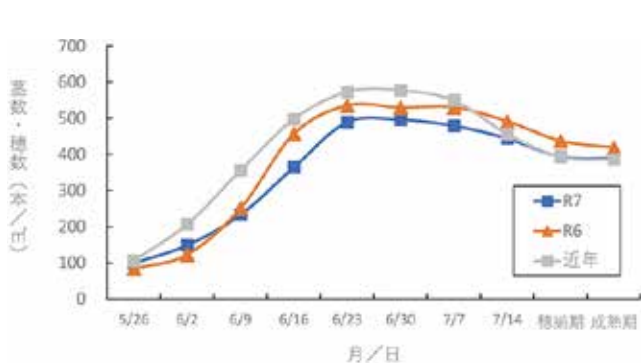


図1 茎数・穂数の推移 ※近年は H29～R6 の平均値

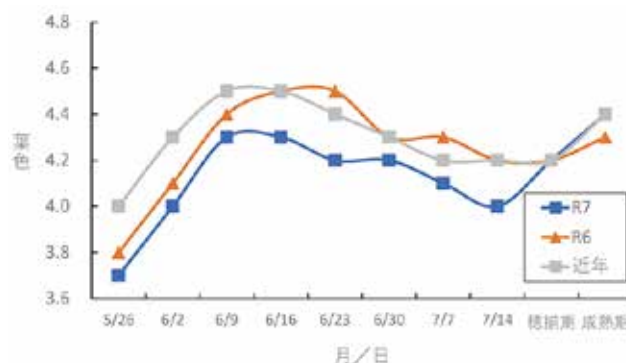


図2 群落葉色の推移 ※近年は H29～R6 の平均値

②収量及び収量構成要素

穂数は近年並み、1穂粒数が多くなったことから、m²当たり粒数は多くなりました。登熟歩合及び千粒重は近年並みであり、精玄米重は586kg/10aと近年に比べ多くなりました。

表1 収量及び収量構成要素

(%)

年度	収量構成要素					
	収量 精玄米重 (kg/10a)	穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒/穂)	m ² 当り粒数 (粒/m ²)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)
R7	586	389	85.6	33,300	22.2	80.9
R6	559	419	71.8	29,900	22.5	83.5
近年*	520	385	76.8	29,800	22.1	80.5
近年比	多い	並	多い	多い	並	並

※近年は H30～R6 の平均値

③品質及び食味関連形質

整粒歩合(肉眼調査)は近年並みとなりました。また、基白・背白粒、乳白・心白粒、青未熟粒が近年並となりました。玄米蛋白含有率は品質目標の6.4%以下となりました。

表2 品質及び食味関連要素

(%)

年度	肉眼調査					ES-V 整粒	玄米蛋白含有率
	整粒	基背白	乳心白	青未熟	その他		
R7	84.7	5.2	5.3	3.1	1.7	74.0	6.0
R6	87.3	5.2	4.0	1.2	1.8	71.5	6.2
近年*	83.9	5.9	5.4	2.1	2.6	70.5	6.0
近年比	0.8	-0.7	-0.1	1.0	-0.9	3.5	0.0

※肉眼調査の近年は H30～R6 の平均値、ES-V 整粒の近年は R1～R6 の平均値、玄米蛋白含有率の近年は H30～R6 の平均値

(ウ) てんたかく

①生育経過

生育初期の㎡当たりの茎数は平年並に推移し、6月23日から少なくなり、穂数は465本/㎡（平年501本/㎡）と平年に比べ少なくなりました。

生育期は前年・平年より早く、**出穂期、成熟期は平年に比べ7日程度早くなり**ました（表1）。

表1 生育期

年度	生育期（月/日）			
	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期
R7	5/3	6/22	7/11	8/14
R6	5/3	6/25	7/14	8/16
平年	5/5	6/26	7/17	8/21

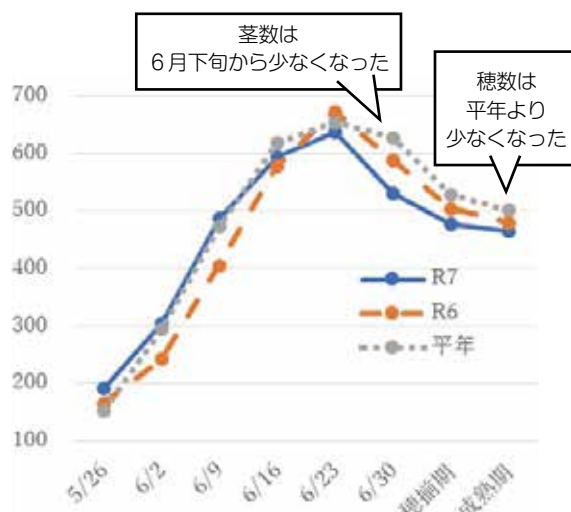


図1 ㎡当たり茎数の推移

②収量及び収量構成要素

平年に比べ、**千粒重、登熟歩合は高かったものの、穂数、1穂粉数、㎡当たり粉数が少なく、精玄米重は576kg/10aと少なくなりました。**

整粒歩合は平年に比べ低くなりました（表2）。

表2 収量及び収量構成要素

(%)

年度	収量	収量構成要素					品質	
	精玄米重 (kg/10a)	穂数 (本/㎡)	1穂粉数 (粒/穂)	㎡当粉数 (粒/㎡)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	整粒歩合 (%)	
R7	576	465	61.8	28,600	87.3	23.0	71.0	
R6	542	479	59.7	28,600	86.0	23.6	87.5	
平年	609	501	65.6	32,900	82.2	22.6	88.1	
平年比	少ない	少ない	少ない	少ない	高い	やや大きい	低い	

③管内の検査成績

1等比率は、アルプス農協全体で前年86.2%から94.7%と高く、過去10年で最も高くなりました。

市町村別の1等比率は、立山町、滑川市、舟橋村では90%を超え、上市町87.0%となっていますが格落理由の「**部分カメ**」は減少しています（表3）。

その他「**胴割粒**」も格落理由となっていることから、**8年産も3回の基本防除と適期収穫の徹底が必要**です。

表3 市町村別検査成績と要因別格落割合

		全体	立山	舟橋	上市	滑川	
R7	1等比率	94.7	92.5	95.2	87.0	98.6	
	格落理由	部分カメ	67.8	52.4	100.0	87.2	59.2
		除青未熟	17.3	23.4	-	12.8	12.2
		胴割粒	14.9	24.2	-	-	28.6
R6	1等比率	86.2	89.5	73.3	70.1	91.1	
	格落理由	部分カメ	73.1	84.0	100.0	100.0	24.5
		除青未熟	1.8	-	-	-	6.0
		胴割粒	21.5	1.7	-	-	69.5

※ R7は7年12月9日現在、R6は7年1月15日現在

(工) てんこもり

①生育経過

草丈は県平均並に推移し、稈長も 80.6cm（県平均 80.3cm）と並となりました。

㎡当たりの莖数は県平均並よりかなり少なく推移したものの、穂数は 452 本/㎡（県平均 452 本/㎡）と並となりました。

葉色は6月中旬まで県平均並よりやや淡く、その後は並に推移しました。

田植日は、県平均に比べ5日遅い5月13日。**幼穂形成期は2日遅い7月14日、出穂期は1日早い8月2日、成熟期は2日早い9月16日**となりました（表1）。

表1 生育期

年度	生育期（月/日）			
	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期
R7	5/13	7/14	8/2	9/16
県前年	5/8	7/10	8/1	9/12
県平均	5/8	7/12	8/3	9/18

②収量及び収量構成要素

穂数は、**1穂粉数、㎡当たり粉数、千粒重**は県平均並であったものの、登熟歩合は県平均より高くなったことから、**精玄米重は672kg/10aと多くなりました**（表2）。

表2 収量及び収量構成要素

(%)

年度	収量	収量構成要素					品質	
	精玄米重 (kg/10a)	穂数 (本/㎡)	1穂粉数 (粒/穂)	㎡当粉数 (百粒/㎡)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	整粒歩合 (%)	
R7	672	452	77.1	34,800	86.9	21.9	78.0	
県前年	628	459	76.8	35,200	82.4	21.8	83.8	
県平均	616	452	78.8	35,500	78.7	21.9	85.2	
県平均比	多い	並	並	並	高い	並	低い	

③管内の検査成績

1等比率は、アルプス農協全体で前年並の**95.8%と高くなっているものの、市町村別の1等比率は上市町が88.1%と低くなっています。**

格落理由は「**部分カメ**」が**80.9%**となっており、**8年産は2回の基本防除を徹底する**必要があります（表3）。

表3 市町村別検査成績と格落理由

(%)

		全体	立山	舟橋	上市	滑川
R7	1等比率	95.8	95.2	100.0	88.1	97.7
	格落理由					
	部分カメ	80.9	86.4	-	77.6	75.6
	除青未熟	3.5	7.9	-	-	-
	胴割粒	-	-	-	-	-
R6	1等比率	95.9	93.0	99.6	100.0	97.2

※ R7は7年12月9日現在

(4) 主な等級格落要因と対策

(ア) 黒点米類似粒（くさび米）の発生要因

黒点米類似粒（以下「くさび米」）は、これまでも度々散見されてきましたが、本年はこれまでと比較してやや多く見られました。

①形成過程（写真1）

- ㊦急激な粒の肥大により玄米の腹側の果皮が破れ糊粉層が裂ける。
- ㊧裂け目の拡大により玄米表面にデンプンが露出する。
- ㊨降雨により裂け目にカビが侵入・増殖し周辺が茶褐色となる。



写真1 黒点米類似粒（くさび米）

②令和7年産での発生要因

㊦発生状況（図1）

- ・出穂期が早いほど発生割合が高まる。
- ・「コシヒカリ」に比べ「富富富」での発生は少ない。

㊧気象の特徴（表1）

- ・出穂期が早くなるほど出穂後1～5日間の平均気温が高かった。
- ・出穂後11～15日間の気温が低かった。
- ・出穂後11～20日間の降水量が極端に多かった。

過去の発生年では、出穂後1～5日の平均気温と出穂後11～15日の平均気温差が大きい場合に多発すると推測されており、R7年は概ね同様の気象となりました。

㊨水稻の特徴

栽培面では、**㎡当たり籾数が極端に多い、または少ない場合、くさび米発生割合が多く見られました（図2）。**

このような圃場では、水不足や中干し不足など水管理が粗放であることが考えられます。

③まとめ

くさび米の発生は、出穂が早くて出穂後の気温が高く、また、その後の降水量が多くなった場合に発生が助長されています。

発生抑制対策

- ・**出穂期前後の湛水管理を確実に実施して**圃場全体の気温を下げる。
- ・出穂が早くならないよう**田植時期を調整**する。
- ・**生育ステージに合わせた水管理により適正な籾数に誘導**する。

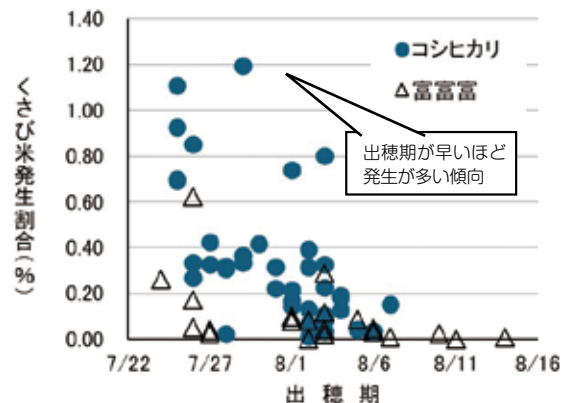


図1 出穂期とくさび米の発生割合

表1 出穂後の気象条件（富山アメダス）

年度	出穂期	くさび米発生率 (%)	平均気温 (°C)				降水量 11-20日 (mm)
			出穂後 20日間	1-5 ①	11-15 ②	①-②	
R7	7/24～27	0.63	28.7	30.4	27.6	2.8	314
	7/28～31	0.39	28.4	30.3	26.1	4.2	139
	8/1～4	0.23	28.4	29.5	28.2	1.3	34

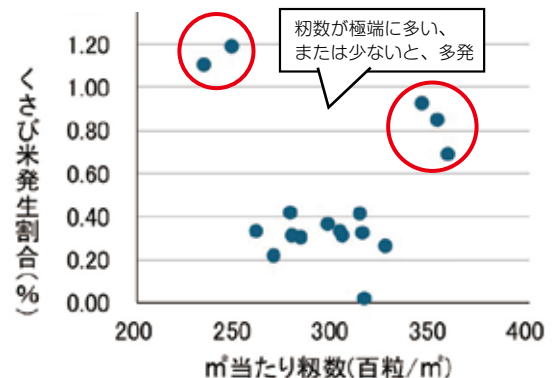


図2 ㎡当たり籾数とくさび米の発生割合

(イ) 斑点米 ~近年はカメムシの発生量が多いので、全品種、防除の徹底で斑点米防止~

①発生状況

- 近年は、気温が高く推移しており、雑草地も多いことから、カメムシの発生量が増えており、R7年は、近年の約2倍の発生量でした(図1)。
- 特に、早生「てんたかく」は水田内へのカメムシの侵入量が多く、毎年、「部分カメ(斑点米)」による格落が多くなるため、R7年は出穂期からの3回防除としたところ、「部分カメ」による格落が減り、1等比率が高くなりました(表1、表2、図2)。

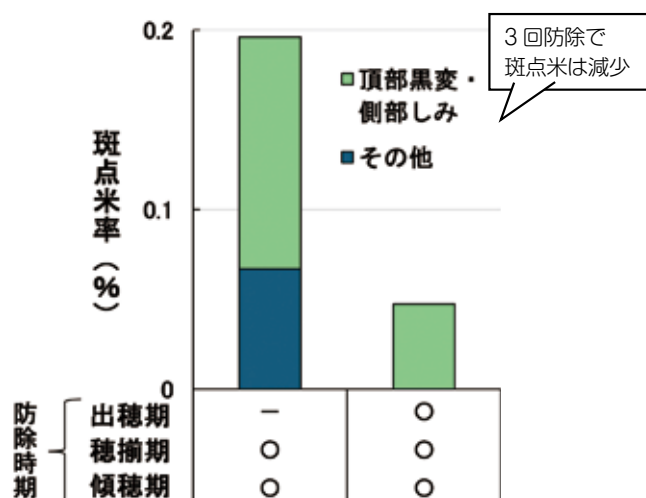


図2 カメムシ多発時のてんたかくの防除時期と斑点米率 (R7年富山農林振興センター)

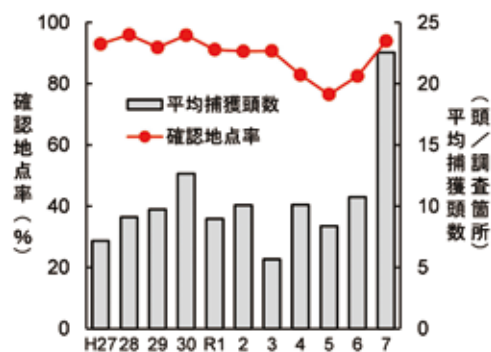


図1 雑草地におけるカメムシのすくい取り調査結果(20回振り) (R7年 JA アルプス管内技術者協議会)

表1 検査米中の部分カメによる格落割合(%)

年度	てんたかく	コシヒカリ	富富富	てんこもり
R7	4.4	7.8	1.6	3.8
R6	10.1	2.5	0.3	0.5

表2 てんたかくの1等比率と格落要因

年度	1等比率	格落要因と格落米中の割合		
		1位	2位	3位
R7	93.6%	部分カメ 67.8%	除青未熟 17.3%	胴割粒 14.9%
R6	86.2%	部分カメ 73.1%	胴割粒 21.5%	もみ混入 2.3%

※ R7年度の検査結果はR7年11月14日時点
 ※ 「部分カメ」は斑点米被害のこと

- てんたかく以外の品種では「部分カメ」による格落がR6年より増えています(表1)。
- 稲刈取後の11月上旬に、イネ科雑草が繁茂している畦畔等や2番穂が出ている水田内に、越冬前のカメムシがたくさんいることを確認しました(図3)。カメムシの成虫や卵による越冬量が多くなり、来年の発生量も多くなると予想されます。

発生抑制対策

- R8年は、春先から、除草剤散布等により、カメムシの密度低減に努めるとともに、本田防除は全品種で遅れずに適期にしっかり行いましょう。

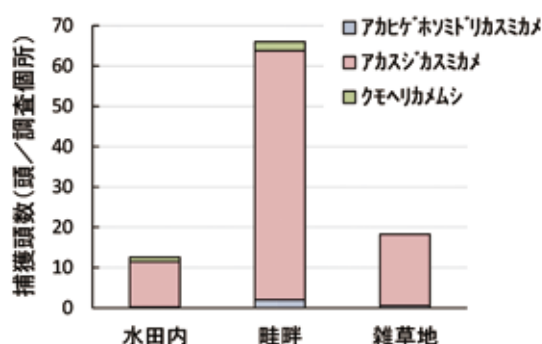


図3 11月上旬のカメムシのすくいとり調査結果(20回振り) (R7年富山農林振興センター)

【カメムシの本田防除(基本)】

てんたかく：出穂期から7日間隔で3回防除(出穂期、穂揃期、傾穂期)

てんたかく以外：穂揃期から7日間隔で2回防除(穂揃期、傾穂期)

※カメムシの発生量が多いてんたかくは、「出穂期」からの防除が肝心!

6 令和8年度 水稻の重点技術対策

① 5/15 中心の田植えに合わせた育苗作業

- 播種日は4月26日を中心とし、**育苗日数は19日以内**を目安に計画的な育苗を行いましょ。う。
- 播種量は**乾粉120g/箱の薄播き**を徹底し、健苗育成に努めましょ。う。
- 搬出直後でも日射があれば積極的に換気を行い、搬出後3日目以降は**日中の温度が25℃以下**になるよう、換気を徹底ましょ。う。

② 苗箱施薬の徹底による病害虫の防除

- 近年、イネゾウムシ・イネミズゾウムシ等の初期害虫や、紋枯病の発生が増えてきています。**決められた量の苗箱施薬剤を散布**することで、予防的な防除に努めましょ。う。

③ 初期生育の確保

- **コシヒカリの田植えは、5月15日を中心**となるよう計画的に行いましょ。う。
- 田植機の設定は、**栽植株数70株/坪、植付本数3～4本/株、植付深さ3cm程度**になるよう調整ましょ。う。
- 初期生育を促進するため、**基肥量は土壌やほ場条件に応じて、適正量を施用**ましょ。う。
- 田植直後から4日程度は**水深5cm程度の深水管理**、苗の活着後は**水深2～3cm程度の浅水管理**を行いましょ。う。
- 除草剤の散布時は田面が露出しないよう水深5cm程度を保ち、散布後5～7日間は止め水管理を行いましょ。う。また、**田植同時除草剤を散布する場合は、軟弱徒長苗の使用や極端な浅植え・深植えは行わない**ようにましょ。う。

④ 生育ステージに応じた水管理

- **中干しは、田植後4週間までに遅れず開始**し、田面に大きなヒビが入るほど強く干したり、幼穂形成期頃まで干し続けることがないように注意ましょ。う。
- **中干し後から幼穂形成期までは間断かん水**を行い、幼穂形成期頃までに足跡深さが3cm程度の硬さになるようにましょ。う。
- **幼穂形成期から出穂期までは飽水管理**を行い、常に足跡や溝に水が残る状態を保ちましょ。う。

⑤ 追加穂肥の施用

- コシヒカリの出穂7～10日前（幼穂形成期から14日後頃）に葉色が4.0（砂壤土は4.2）未満の場合、**出穂3～7日前までに追加穂肥を施用**し、稲体活力の維持に努めましょ。う。

⑥ 本田防除（早生3回、中生・晩生2回）の徹底

- 近年、カメムシ類の被害が増加しているため、**てんたかくは3回（出穂期、穂揃期、傾穂期）、コシヒカリ・富富富・てんこもりは2回（穂揃期、傾穂期）**の基本防除を徹底ましょ。う。

⑦ 適期刈取りの実施

- **出穂後20日間は湛水管理、収穫5～7日前までは間断かん水**を行いましょ。う。
- **籾黄化率85～90%頃に刈取り**を行いましょ。う。

⑧ 土づくりの励行

- 刈取り後は、**秋耕**を行い、稲わらや籾がらの腐熟を促進ましょ。う。
- **土壌改良資材や堆肥**による土づくりを積極的に行いましょ。う。

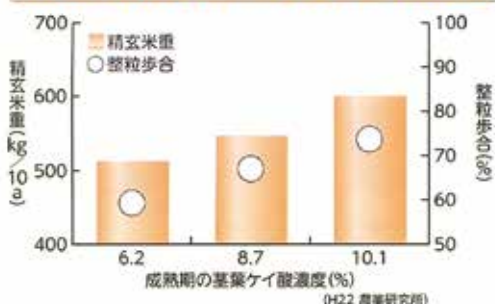
(1) 3月 土づくり・育苗計画・雑草管理

(ア) 土づくり

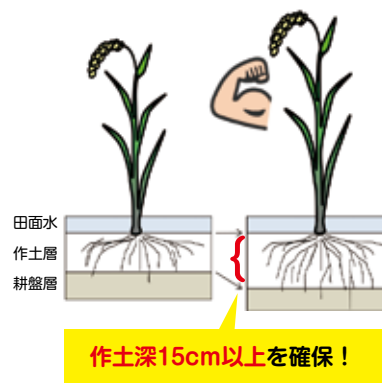
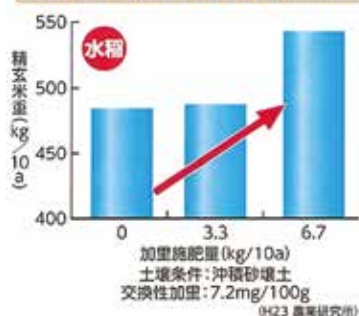
～高温等の気象変動に打ち勝つ米づくりのために～

- 「土づくり」は農産物生産の基礎です。近年のような高温等の気象変動の下、高品質で美味しい、安全・安心な農産物を供給する上で極めて重要です。
- 土壌改良資材や堆肥等を秋に施用してない圃場は、春に施用して、ケイ酸やカリ等を補給しましょう。また、春耕時に深さ15cmの深耕を行って根を深く伸ばし、肥料を吸収しやすいようにしましょう。

光合成能力の向上▶高温でも収量・品質の確保



水稻は登熟が向上し、収量UP



(イ) 育苗計画

～5月15日中心の田植えとなるように育苗計画を立てましょう～

- 育苗日数** (播種から田植えまでの日数) は **19日間以内**を目安に、計画的な育苗を行いましょう (表1)。
- 田植予定日から浸種開始日を決めましょう (表1)。

老化苗にならないように、計画を立てよう!



表1 育苗計画の目安

田植予定日	浸種開始日	播種日	育苗日数	出穂期
5/10	→ 4/8頃	4/19頃	21日	7/30頃
5/15	→ 4/17頃	4/26頃	19日	8/2頃
5/20	→ 4/25頃	5/3頃	17日	8/7頃

R8年産は、この時期を中心に実施!!

(ウ) 雑草管理 (カメムシ・初期害虫対策)

～雑草はカメムシ等害虫のエサ～

- カメムシや初期害虫 (イネゾウムシ、イネミズゾウムシ) は雑草地等で越冬し、越冬後はイネ科雑草をエサとするので、春先から雑草管理をしっかりと行い、カメムシや初期害虫の密度低減に努めましょう。
- 雑草管理の方法
 - 雪解け後 (雑草の生え始め)・・・畦畔への抑草シートの張り付け
 - 4月下旬頃 (雑草の生育期)・・・茎葉処理除草剤を散布

〈茎葉処理除草剤〉

除草剤名	使用時期	10a当たり使用料	使用上の注意等
ザクサ液剤	雑草の生育期	500～1,000ml (希釈水量100～150ℓ)	<ul style="list-style-type: none"> 雑草の草丈 15～20cmの時の散布が効果的 雑草の茎葉全体に均一にかける 雑草の根が残るので畦が崩れにくい 風のない時に散布 散布後に降雨が予想される場合は使用しない 使用は稲の収穫7日前まで
バスタ液剤			

高温に打ち勝つため土づくり資材を施用しましょう

○こんな症状がありませんか？

ケイ酸

ケイ酸が不足すると倒伏や病害、高温障害が発生しやすい



倒伏

乳白粒

基白粒

黒点米類似粒
(くさび米)



割籾が発生すると斑点米
カメムシ類による被害が
助長されます

割籾

ケイ酸に加え、加里、鉄、
マンガンを含む資材を施用
しましょう

ごま葉枯病

鉄

鉄分が不足すると、根の活
力が低下し、根腐れによる
枯上りやごま葉枯病が発生
しやすい



ごま葉枯病

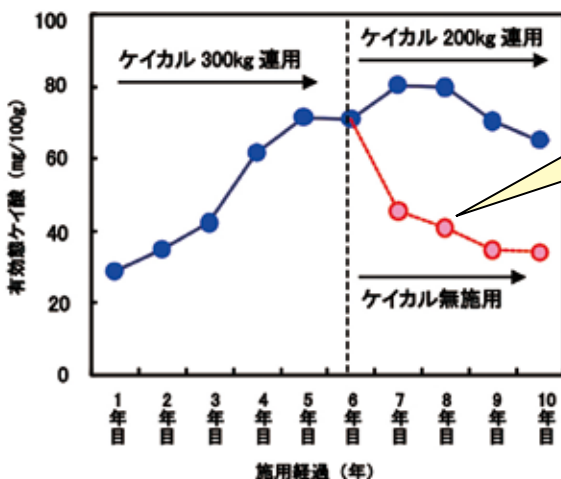
○土づくり資材施用の効果

根が元気になり根張りが良くなる
茎・葉が丈夫になる

初期生育促進、茎数確保
登熟向上、倒伏防止
病虫害被害軽減

収量増加
品質向上

○土づくり資材は継続施用しましょう



資材の施用を中断すると
急激に低下

土づくり資材の
継続的な施用が重要

土 づ くり 資 材

秋に土づくり資材を施用していないほ場では、春に施用しましょう

●粒状ケイカル



ケイ酸

【特徴】

- ・ケイ酸の含量が高い
- ・稲体が丈夫になり、倒伏・高温障害を軽減
- ・稲の姿勢が良くなり、光合成が盛んになる

【10a当たり施用量】
200kg

●アサヒニューテツ



ケイ酸

鉄

【特徴】

- ・鉄の含量が高い
- ・根を守り、水稻の根腐れを軽減
- ・こま葉枯病の発生軽減

【10a当たり施用量】
100kg

●シリカロマン



ケイ酸

【特徴】

- ・葉や茎が丈夫になり、倒伏や病虫害軽減
- ・ケイ酸・リン酸・苦土・鉄が一度に施用可能

【10a当たり施用量】
100kg

●シンキョーライトP



ケイ酸

【特徴】

- ・天然ゼオライトの補給で保肥力の改善
- ・ケイ酸・鉄が一度に施用可能

【10a当たり施用量】
100kg

《春の土づくり運動 3月～4月》

(2) 4月 育苗・田植え準備

(ア) 種子消毒

- モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬してください。
- 消毒液の水温は10～15℃を保ってください。
- 消毒後は水洗いせず、浸種作業に入ってください。

廃液の処理は廃液処理業者に依頼する等適正に行い、河川等に流さないでください。

表1 薬剤量の目安（希釈倍率 200 倍）

種籾量	水	薬量
10kg	20L	100g
30kg	60L	300g

注) 薬液は種籾の2倍量準備する。

(イ) 浸種

- 水量は籾容量の2倍を目安とします。
- 浸種桶は日光が直接当たらない場所に置き、必ず温度計を入れて、定期的に水温を確認しましょう。
- 浸種水温は、10～15℃を確保し、積算気温（温度×日数）が120℃を目安に浸種しましょう。

◇適切な浸種の効果

- ①発芽に必要な水分を吸収させる。
- ②発芽阻害物質を除去する。
- ③発芽の揃いを良くする。



特に浸種開始後短時間の適水温（12.5℃）での浸種が、その後の低水温に対する抵抗性を高めるので、浸種初日の温度管理には留意してください。

- 種子消毒の効果を高めるため、浸種開始後3日程度は水の交換を行わないでください。
- その後は酸素不足にならないよう、2日に1回水の交換を行きましょう。
- 水の交換時に袋の上下を入れかえ、温度ムラをなくしてください。
- 特に早生・晩生品種など、出芽揃いの悪い品種では積算温度をしっかり確保してください。

(ウ) 催芽

- 催芽の程度はハトムネ～芽長2mm程度に揃えましょう(写真1)。
- 育苗器を使用する場合は、庫内に温度計を設置し、30℃で24時間を目安に、芽の状況を確認しながら作業を行きましょう。

細菌性病害発生防止のため、循環式催芽器（ハトムネ催芽器）は使用しない（ただし、温湯消毒の体系処理（催芽時に食酢浸種処理）を行う場合を除く）。



写真1 催芽の程度

(エ) 播種作業

- 播種量は乾籾 120g/箱（水切り後重量 150g/箱）としましょう。
- 青カビ等の発生防止のため、播種時にダコレート水和剤（1,000倍液・1L/箱）をかん水してください。
- もみ枯れ細菌病等の細菌性病害の発生が懸念される場合は、カスミン液剤（4～6倍液、50mL/箱）の播種後覆土前処理を必ず行いましょう。

隙間を作ることで、より多くのかん水を培土内部までムラなくしみ込ませ、その後の乾きを遅くする。

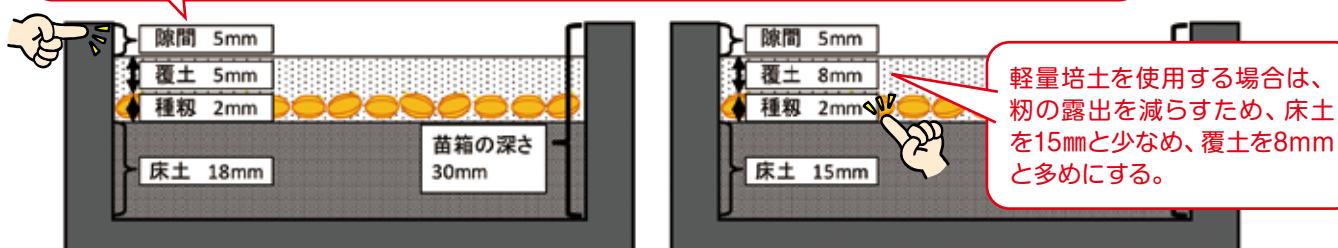


図1 適正な播種イメージ（左：加工床土の場合、右：軽量培土の場合）

(オ) 出芽

- 育苗器は外気温の影響を受けにくい場所に設置してください。
- サーモスタットは事前に点検し、**出芽温度は30℃を厳守**し、50～60時間を目安に、こまめに温度や出芽状況を確認してください。
- 芽が1cmに伸びたらハウスへ搬出してください。

出芽温度が高いと細菌病が出やすく、低いと出芽が遅れかつ不揃いになるので注意！

(カ) ハウスの準備

- 育苗ハウス内の雑草は苗箱の搬入前にあらかじめ刈払い、置床を均平にしてください。
- **ハウスの周囲には必ず排水溝を掘り、置床が乾くように**してください。

(キ) 搬出後の管理

- 葉ヤケ防止のため、搬出直後は**必ず覆土を落ち着かせる程度のかん水**をしてください。
- 苗の白化を防ぐため、被覆資材で遮光し、緑化したら取り除いてください。
- **温度計は育苗箱の横で、苗の高さに合わせて設置し、こまめに温度を管理**しましょう。



搬出直後でも、日射があれば積極的に換気を行ってください！

(ク) 育苗硬化期の管理

- 晴天が予想される日はハウス内温度が急激に高くなるので、早朝から換気しましょう。
- 強風時で温度が高い場合は、風下を開けて換気してください。
- 床土の乾きに応じてかん水量を調整してください。

かん水過多は根の伸びが悪くなるとともに、カビが発生しやすくなり、かん水不足になると葉ヤケが発生するので注意！

- **搬出後1週間頃からは、低温や強風が予想される場合を除き昼夜ともに換気し、外気に慣らしましょう。**

(ケ) 田植え準備

田面に高低差があると、①田植機の植付精度が低下する、②除草剤の効果が劣る、③水管理がスムーズに行えないなどの問題が生じ、穂数の確保や収量・品質の**安定が図られません**。

① 畦塗り

- 圃場からの漏水を防止し、効率的な水管理を行うために、畦塗りを行いましょう。

② 耕起作業

- 耕起作業時はできるだけ圃場が乾いた状態で行い、トラクタの速度を落とし、ロータリーの回転数を低速回転にして、作土層を15cm以上確保し、根が伸びる環境を整えましょう。

③ 代かき作業

- 代かきから田植えまでの期間が長くなると、雑草の生育が進み、除草剤が効きにくくなるので、計画的に作業を行いましょう。
- 代かき時の水は少なめにし、稲わら等をしっかり埋没させましょう。

移植時の理想の苗
(実寸大イメージ)

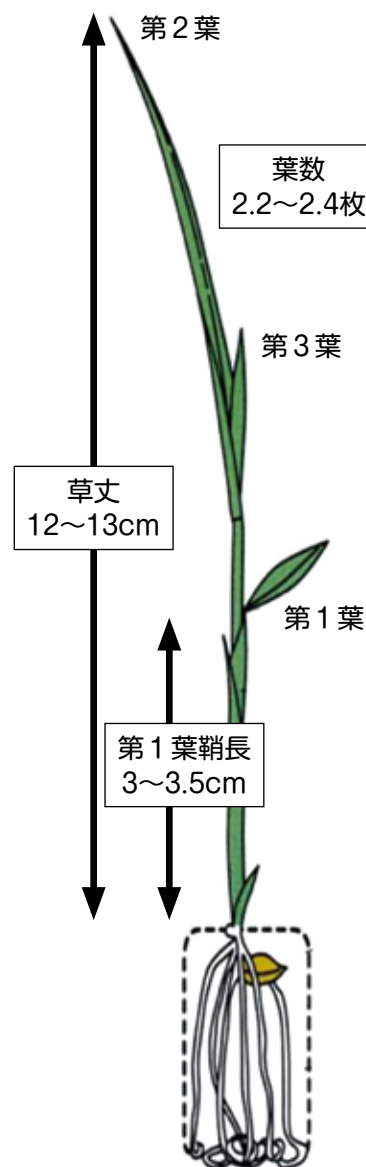


図2 目標とする苗
(播種量 120g/箱)

苗質の良否が、活着、初期茎数の早期確保に大きな影響を及ぼします。管理ポイントを守って、根が十分に張り、生育が揃い、病害がない、理想の苗に仕上げましょう！

コシヒカリ 施肥基準例 (5/15植え)

1. 省カタイプ基肥一発施肥設計

(単位: kg/10a)

土 壤 区 分	肥 料 名	基 肥	中 間 追 肥	穂 肥	
				1 回 目	2 回 目
沖積砂壤土 沖積壤土	けい酸加里入りJコートコシヒカリ1号 (18-5-12)	45kg	/		
	追肥3号 (15-3-15) ※				(7kg)
沖積粘質土 沖積半湿田 黒ボク土 (平坦地)	けい酸加里入りJコートコシヒカリ2号 (18-6-12)	38kg			
	追肥3号 (15-3-15) ※				(7kg)
洪積粘質土 (山手地域)	けい酸加里入りJコートコシヒカリ2号 (18-6-12)	35kg			

- ※ 栄養凋落による白未熟粒の発生を防ぐため、出穂前に生育診断を実施し、状況に応じて追肥3号で7kg/10a程度を追肥してください。
- ※ 発酵鶏ふんを施用した場合は基肥を2割程度減らしてください。
- ※ 圃場の条件によって施肥量を加減してください。

2. 基肥一発施肥設計

(単位: kg/10a)

土 壤 区 分	肥 料 名	基 肥	中 間 追 肥	穂 肥	
				1 回 目	2 回 目
沖積砂壤土 沖積壤土	Jコートコシヒカリ1号 (21-9-18)	38kg	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">けい酸加里 20kg</div> または <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">エスアイ加里 らくだ 15kg</div> <b style="color: red;">必ず使用		
	追肥3号 (15-3-15) ※				(7kg)
沖積粘質土 沖積半湿田 黒ボク土 (平坦地)	Jコートコシヒカリ2号 (21-9-18)	33kg			
	追肥3号 (15-3-15) ※				(7kg)
洪積粘質土 (山手地域)	Jコートコシヒカリ2号 (21-9-18)	30kg			

- ※ 栄養凋落による白未熟粒の発生を防ぐため、出穂前に生育診断を実施し、状況に応じて追肥3号で7kg/10a程度を追肥してください。
- ※ 発酵鶏ふんを施用した場合は基肥を2割程度減らしてください。
- ※ 圃場の条件によって施肥量を加減してください。

3. 分施肥設計

(単位: kg/10a)

土 壤 区 分	肥 料 名	基 肥	中 間 追 肥	穂 肥	
				1 回 目	2 回 目
沖積砂壤土 沖積壤土	基肥206 (12-20-16)	32kg	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">けい酸加里 20kg</div> または <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">エスアイ加里 らくだ 15kg</div> <b style="color: red;">必ず使用		
	追肥3号 (15-3-15) または LP追肥38号 (20-0-18)			10kg	13kg
沖積粘質土 沖積半湿田 黒ボク土 (平坦地)	基肥206 (12-20-16)	25kg			
	追肥3号 (15-3-15) または LP追肥38号 (20-0-18)			10kg	12kg
洪積粘質土 (山手地域)	基肥206 (12-20-16)	23kg			15kg
	追肥3号 (15-3-15)			10kg	10kg

- ※ 発酵鶏ふんを施用した場合は基肥を2割程度減らしてください。
- ※ 圃場の条件によって施肥量を加減してください。

富富富 施肥基準例 (5/10頃植え)

(単位：kg/10a)

土壌区分	基肥一発体系		分施体系				
	肥料名	基肥	肥料名	基肥	肥料名	穂肥	
						1回目	2回目
砂壌土	富富富専用 (21-10-19)	30	基肥206 (12-20-16)	27	追肥3号 (15-3-15)	5~7	10~13
壤土 黒ボク土		25		21		5~7	10~12
粘質土		22		19		5~7	10

※側条施肥の場合

てんたかく 施肥基準例 (5/5頃植え)

(単位：kg/10a)

土壌区分	基肥一発体系		分施体系				
	肥料名	基肥	肥料名	基肥	肥料名	穂肥	
						1回目	2回目
砂壌土 壤土	エコ早生専用 (24-6-16)	40	基肥206 (12-20-16)	40	追肥3号 (15-3-15)	10	13
半湿田 黒ボク土		35		35		10	12
粘質土		30		30		10	10

※側条施肥の場合

てんこもり 施肥基準例 (5/8頃植え)

(単位：kg/10a)

土壌区分	基肥一発体系		分施体系				
	肥料名	基肥	肥料名	基肥	肥料名	穂肥	
						1回目	2回目
砂壌土 壤土	LPss晩生専用 (21-14-14)	45	基肥206 (12-20-16)	45	追肥3号 (15-3-15)	13	13
半湿田 黒ボク土		40		40		10	12
粘質土		35		35		10	10

※側条施肥の場合

ご不明な点がございましたら、農協営農指導員または普及指導員までご相談ください。

(3) 5月 田植え・苗箱施薬・田植え後水管理・雑草防除

(ア) 田植え

① 田植え

表1 田植機の設定

項目	田植機の設定	
栽植株数	70株/坪 目標：70株/坪	少ないと面積当たりの穂数（目標 400 本 /m ² ）が確保しにくい。
植付本数	掻き取り量「やや少なめ」 目標：3～4本/株	多いと倒伏したり、登熟が低下する。 少ないと目標の穂数が確保しにくい。
植付深さ	植付深さ「やや浅め」 目標：3cm	深いと初期分けつの発生が抑えられる（図1）。 浅いと流れ稲になったり、除草剤の薬害が発生しやすい。

- 密苗は、短く、軽く、浮き苗になりやすいことから、欠株を少なくするため植付本数をやや多くしましょう。
- **田植同時除草剤**を使用する場合は、田植え後、**すぐにゆるやかに入水**しましょう。
- **密苗**及び軟弱徒長の苗の場合や、植穴の戻りや水持ちが悪い圃場では**田植同時除草剤の使用を控え**ましょう。

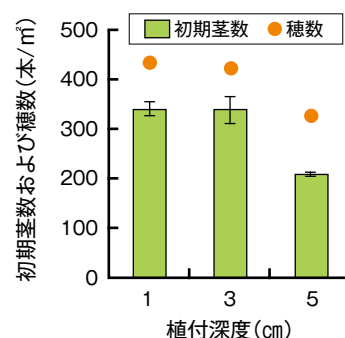


図1 植付深度が茎数、穂数に及ぼす影響 (H24 農研)

② 基肥

表2 コシヒカリの基肥施用量の目安

土壌区分	基肥一発栽培				分施栽培	
	<標準タイプ>		<省力タイプ>		<側条施肥>	
	肥料名	施用量/10a	肥料名	施用量/10a	肥料名	施用量/10a
沖積砂壤土 沖積壤土	Jコートコシヒカリ1号 (21-9-18)	38kg	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ1号 (18-5-12)	45kg	基肥206	32kg
沖積粘質土 沖積半湿田 黒ボク土 (平坦地)	Jコートコシヒカリ2号 (21-9-18)	33kg	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ2号 (18-6-12)	38kg		25kg
洪積粘質土 (山手地域)		30kg		35kg		23kg

※Jコートコシヒカリ1号、2号は、6月下旬に「ケイ酸加里」又は「 एसアイ加里らくだ」を散布してください。

- 初期生育を確保し、目標収量（540kg/10a）を達成するために、**基肥施用量は土壌区分や圃場条件に応じて、適正量を施肥**しましょう（表2）。
- 近年、高温傾向にあることから、基肥一発栽培の基肥施用量の目安が増肥されています。基肥施用量の見直しを行いましょう。

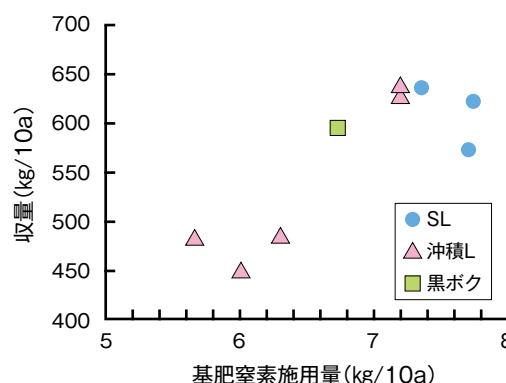


図2 基肥窒素施用量と収量 (R7 富山農林振興センター)

(イ) 苗箱施薬

薬 剤 名	散布量	使用時期	対象病害虫
ブーンレパード 箱粒剤	50g/箱 (密苗は 1kg/10a)	播種時（覆土前） ～移植当日	いもち病、 紋枯病 、イネミズゾウムシ、 イネドロオイムシ、白葉枯病、もみ枯細菌病、 ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、 ニカメイチュウ、イネツトムシ

- 苗箱施薬により、生育初期の病害虫を予防的に防除しましょう。



写真1 イネゾウムシと食害痕
(成虫の体長：約5mm)



写真2 イネミズゾウムシと
食害痕
(成虫の体長：約3mm)



写真3 紋枯病

(ウ) 田植後水管理

- 田植後の活着を促進するため、**田植直後から4日程度は上から2枚目の葉が隠れる程度のやや深水**を保ちましょう。
- 分げつの発生を促進するため、**苗の活着後は水深2～3cm程度の浅水管理**を行いましょう(図3)。
- 日中の水温(地温)上昇を促進させるため、入水は、早朝または夕方以降に短時間で行いましょう。
- 低温・強風時は深水管理とし、天候が回復した後はすみやかに浅水管理に切り替えましょう。

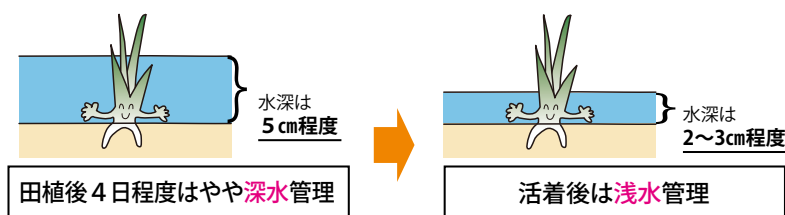


図3 田植後水管理

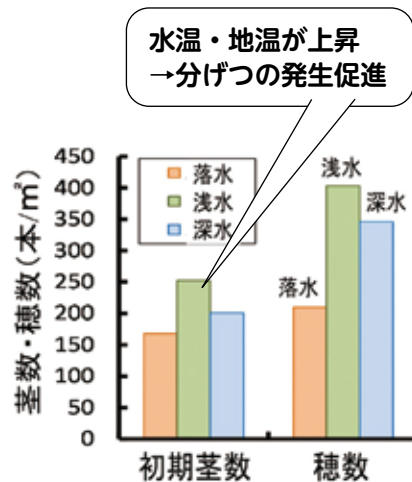


図4 活着後の水管理が初期茎数及び穂数に及ぼす影響 (H24 農研)

(エ) 雑草防除

- 代かきから移植までの日数は**3～5日程度**としましょう。
- 水口、水尻をしっかりと止め、田面が露出しないよう**水深5cm程度**を保ち散布しましょう。
- **散布後5～7日間は止め水管理**とし、水田外への流亡を防ぎましょう(田面が露出する場合は、緩やかに入水してください。また、畦畔等の点検を行い、漏水していないか確認しましょう)。
- 藻類が発生している場合は除草剤散布前に、水の入れ替えや軽い田干しを行いましょう。

除草剤散布後にチラ干しとなっている
(除草剤の効果低減)

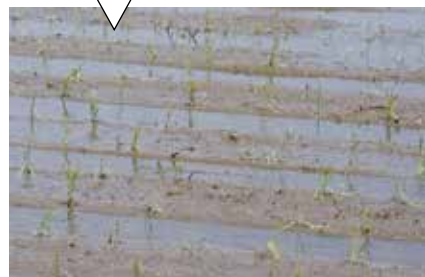


写真4 不適切な水管理

令和8年度 『移植水稻』 本田除草体系図

一 発 処 理 雑草の発生が少ない圃場

『カクシン1キロ粒剤』
『楽粒』



ノビエに長く効く

使用時期

カクシン1キロ粒剤は
移植時～30日
カクシン楽粒は
移植直後～30日

『クサウェポン1キロ粒剤』
『ジャンボ』



コナギ・ホタルイ
に高い効果

使用時期

クサウェポン1キロ粒剤は
移植時～30日
クサウェポンジャンボは
移植後1日～30日

『ベッカク1キロ粒剤』
『豆つぶ250』『ジャンボ』



ノビエに安定した
効果と長期残効

使用時期

ベッカク1キロ粒剤は
移植時～30日
ベッカクジャンボ、豆つぶは
移植後3日～30日

体 系 処 理 雑草の発生が多い圃場

体系①(ノビエ対策)



『マーシエット
1キロ粒剤』

使用時期

移植後3～5日に使用
田植同時処理では使用しない
極端な漏水田、軟弱苗、
浅植条件で使用しない



『ベッカク
1キロ粒剤』
『豆つぶ250』
『ジャンボ』

使用時期

マーシエット散布後
7～10日に使用
ノビエに安定した効果と長期残効



『ウィードコア
1キロ粒剤』
『ジャンボSD』

使用時期

中干し後に使用
ノビエ、SU抵抗性雑草
に効果

体系②(ホタルイ対策)



『ピラクロン
1キロ粒剤』

使用時期

田植同時で使用
SU抵抗性雑草に
高い効果



『クサウェポン1キロ粒剤』
『ジャンボ』

使用時期

移植後10日に使用
コナギ・ホタルイに
高い効果

体系③(中期剤タイプ)



『ピラクロン
1キロ粒剤』

使用時期

田植同時で使用
ホタルイに高い効果



『ウィードコア
1キロ粒剤』
『ジャンボSD』

使用時期

移植後15～20日に使用
ノビエ、SU抵抗性雑草
に効果

もしくは



『テッケン
1キロ粒剤』
『ジャンボ』

使用時期

移植後15～20日に使用
残効性を強化した
中・後期剤

雑草が残った場合

ノビエが残った場合



『クリンチャー ジャンボ』

使用時期
移植後7日～
ノビエ4葉期



『トドメMF 1キロ粒剤』

使用時期
移植後14日～
ノビエ5葉期



タイヌビエ



オモダカ



ホタルイ



コナギ

広葉雑草が残った場合



『バサグラン粒剤』

使用時期
移植後15～55日

落水散布



イボクサ



アゼナ

ノビエ、広葉雑草
が残った場合

クサネムが
発生した場合

『トドメバス MF液剤』



使用時期
移植後15日～
ノビエ6葉期
収穫50日前

『ロイヤント 乳剤』



使用時期
中干し後～
移植後40日
収穫45日前



クサネム



ヒレタゴボウ

(4) 6月 中干し・間断かん水・飽水管理・追肥施用



管理のポイント

- 田植後4週間までに中干しを開始
- 中干しから出穂期まで干し過ぎない水管理で適正な葉色に誘導

(ア) 溝掘りは田植後3週間頃に実施

【溝掘りのポイント】

- 溝を掘る2～3日前に落水し、土がやや硬くなった状態にしましょう。
- 溝掘り作業直前に、ヒタヒタ水程度まで再度入水してから掘りましょう。
- 設置の目安は5m(15～17条)に1本程度としましょう。
- 水がいつも溜まっているところや乾きにくいところは、溝を多く掘りましょう。
- 溝は、深く掘り下げた水尻と確実に連結してください(写真1)。



写真1 乗用管理機による溝掘りと溝の連結

(イ) 中干しは田植後4週間までに遅れず開始

本格的な梅雨で降雨日が続くと、十分な中干しができない場合があります。中干しは、田植後4週間までに遅れず開始しましょう。

【中干しの効果】

- 土壌中の有害ガスの排出
- 根の生育を促進
- 過剰な分けつの抑制
- 収穫時の圃場の硬さを確保

【中干し程度】

- 中干しの強さの目安は、一度に強く干し上げず、田干しを数回繰り返し、地耐力を高める。

【中干し終了時の目安】

- 中央部でくるぶしが軽く沈む程度の土壌の硬さにする(写真2)。

くるぶしが軽く沈む程度



写真2 中干し終了の土壌の硬さの目安

(ウ) 中干し終了から幼穂形成期までは間断かん水

中干し後は間断かん水を行きましょう。

土壌を乾かし過ぎると葉色が低下するため、干し過ぎない水管理を継続しましょう。

【間断かん水の方法】

- 湛水し、溝に水がなくなったら入水しましょう（写真3）。

【間断かん水の目安】

- 出穂後の湛水管理のため、圃場中央で足跡深さが3 cm程度となるように間断かん水を行きましょう。



写真3
足跡に水がなくなったら入水

(エ) 幼穂形成期から出穂期までは飽水管理

近年、高温により幼穂形成期頃から葉色が低下し、穂揃期の葉色が淡くなる傾向があります。

幼穂形成期から出穂期までは、干し過ぎない水管理により肥料の吸収効率を高めることが重要です。

【飽水管理の方法】

3 cm程度入水→自然落水→

足跡の水がなくなる前に入水を出穂期まで繰り返しましょう（写真4、写真5）。

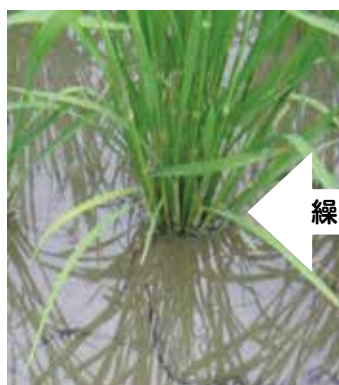


写真4
田面の高い部分が隠れる程度まで入水



写真5
この状態になったら入水

繰り返す

(オ) ケイ酸やカリなどの追肥施用

近年、ケイ酸や加里が、不足している圃場が多くなっています。

土壌中のケイ酸分が増加すると、「ごま葉枯病」や「くさび米」の発生を抑制する効果があります（写真6、写真7）。

加里の施用により根の活力が高まり登熟向上効果が期待されます。

中間追肥を積極的に施用し、土壌の不足養分の補給をしましょう。



写真6
令和7年に多発した「くさび米」



写真7
近年増加傾向の「ごま葉枯病」

(カ) 畦畔等の草刈り

カメムシによる斑点米発生防止のため、畦畔の草刈りを行きましょう。

草刈り運動期間 6月26日頃～7月5日頃
一斉草刈り日 6月27日(土)～28日(日)

(5) 7・8月 畦畔草刈り・水管理・本田防除・追加穂肥

(ア) 水管理と追加穂肥

～高温登熟でも収量・品質を確保するために～

- イネの葉色低下は稲体活力低下のサインです。
- 葉色が急激に低下しないよう、こまめに入水し、田水面の湿潤状態を保ちましょう。
- 幼穂形成期頃の葉色が淡くなり、その後も淡い状態が続くと、穂数や籾数が少なくなり、減収につながります。
- また、穂揃期の葉色が淡いと、品質低下につながります。特に、コシヒカリは高温登熟に弱いため、品質低下が著しく、基白粒や背白粒などの白未熟粒が多発します(図1、図2)。
- 稲体の活力維持のためには、水と養分の両方が必要です。葉色が淡い場合は追加穂肥で養分を補給しましょう(表1)。

【葉色低下時の追加穂肥】

表1 品種別の追加穂肥の判断時期と施用時期

品 種	幼穂形成期の目標葉色	追 加 穂 肥			穂揃期の目標葉色
		判断時期	判断内容【葉色】	施用時期	
てんたかく	4.0以上 (砂壌土4.2以上)	幼穂形成期前	4.0未満 (砂壌土4.2未満)	すみやかに	4.2～4.5程度 (砂壌土4.5程度)
コシヒカリ	3.8程度	出穂7～10日前	4.0未満 (砂壌土4.2未満)	出穂7日前	4.2～4.5程度 (砂壌土4.5程度)
富 富 富	4.0程度	出穂7日前	4.2以下	出穂3日前まで (走り穂まで)	4.4程度
てんこもり	4.0以上 (砂壌土4.2以上)	幼穂形成期前	4.0未満 (砂壌土4.2未満)	すみやかに	4.2～4.5程度 (砂壌土4.5程度)

※追加穂肥の施用量 追肥3号で7kg/10a(窒素成分で1kg/10a)

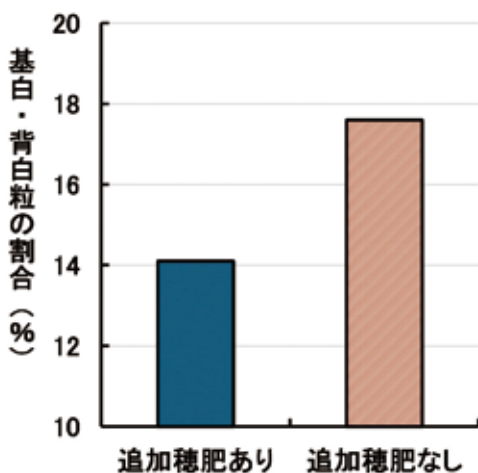


図1 高温年における追加穂肥が基白粒、背白粒の発生に及ぼす影響
※品種：コシヒカリ
(R7年富山農林振興センター)

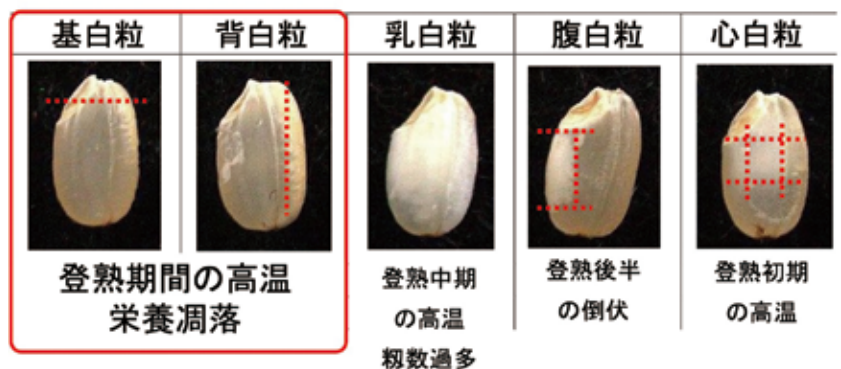


図2 白未熟粒の種類と主な発生要因
(出典：富山県農業技術課)

- 近年は生育期の高温により、幼穂形成期頃から葉色が低下する事例が増えています。そのような圃場では、追加穂肥の施用により稲体の活力が維持され、基白粒・背白粒が少なくなります (図1)。

【出穂後 20 日間の湛水管理】

- 近年は登熟期間が高温で推移しますので、出穂後 20 日間の湛水管理を徹底した圃場は、不徹底の圃場に比べ、背白粒・基白粒が少なくなります (図3)。
- R7 年は、高温により幼穂形成期頃の葉色が急激に低下した圃場が多かったため、「追加穂肥+水管理の徹底」で、穂数・籾数を確保して収量も多く、品質もよくなりました。

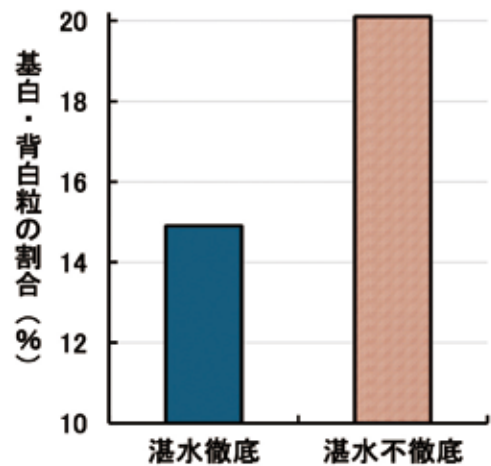


図3 高温年における出穂後 20 日間の湛水徹底が基白粒・背白粒の発生に及ぼす影響
※品種：コシヒカリ
(R7 年富山農林振興センター)

(イ) 適期防除

～近年は、カメムシの発生量が毎年多いので、適切に防除しましょう～

- 近年は、気温が高く推移しており、雑草地も多いことから、カメムシの発生量が増えています。また、クモヘリカメムシなどの大型のカメムシが徐々に増えています。
- 特に早生の「てんたかく」は、水田内へのカメムシの侵入量が多く、等級格落が多いため、R7 年は出穂期からの 3 回防除としたところ、「部分カメ」による格落が減り、1 等比率が高くなり、防除効果がありました (図4)。
- 今後もカメムシの発生量が多くなると予想されます。てんたかくだけでなく、全品種でカメムシの斑点米被害が見られますので、遅れずに適期にしっかり防除しましょう。

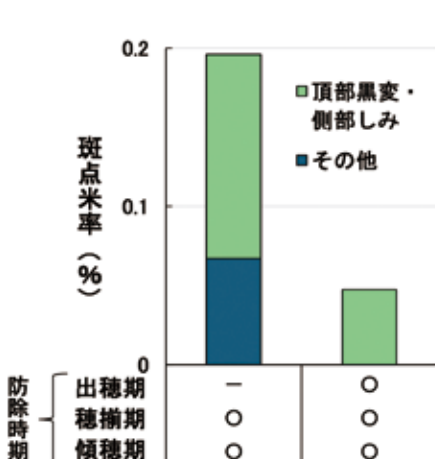


図4 カメムシ多発時のてんたかくの防除時期と斑点米率
(R7 年富山農林振興センター)

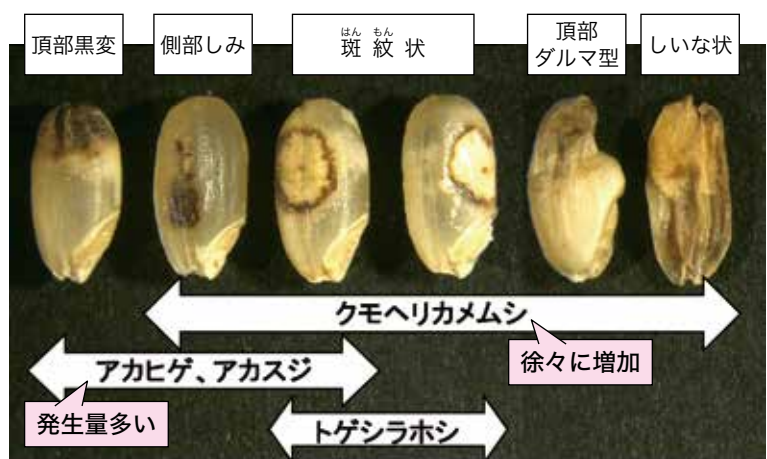


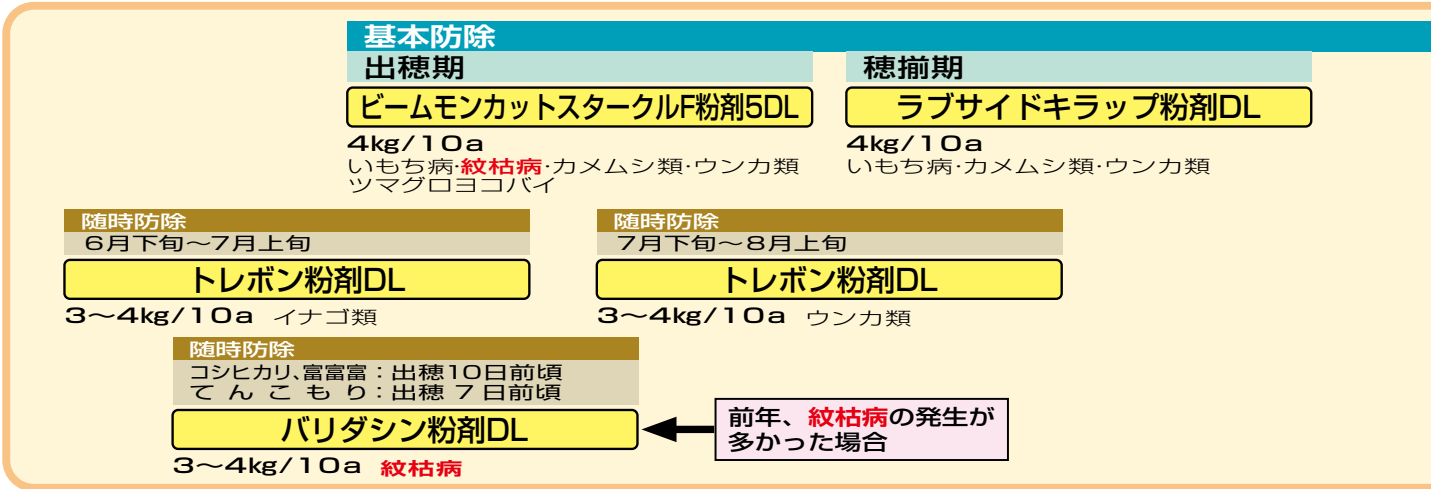
図5 カメムシの種類別の斑点米症状
※アカヒゲ：アカヒゲホソミドリカスミカメ
アカスジ：アカスジカスミカメ
トゲシラホシ：トゲシラホシカメムシ
(R2 年農業研究所病理昆虫課)

令和8年度 水稻病害虫防除体系図（本田防除）

～ 適期・適正な防除で被害を防止しましょう ～

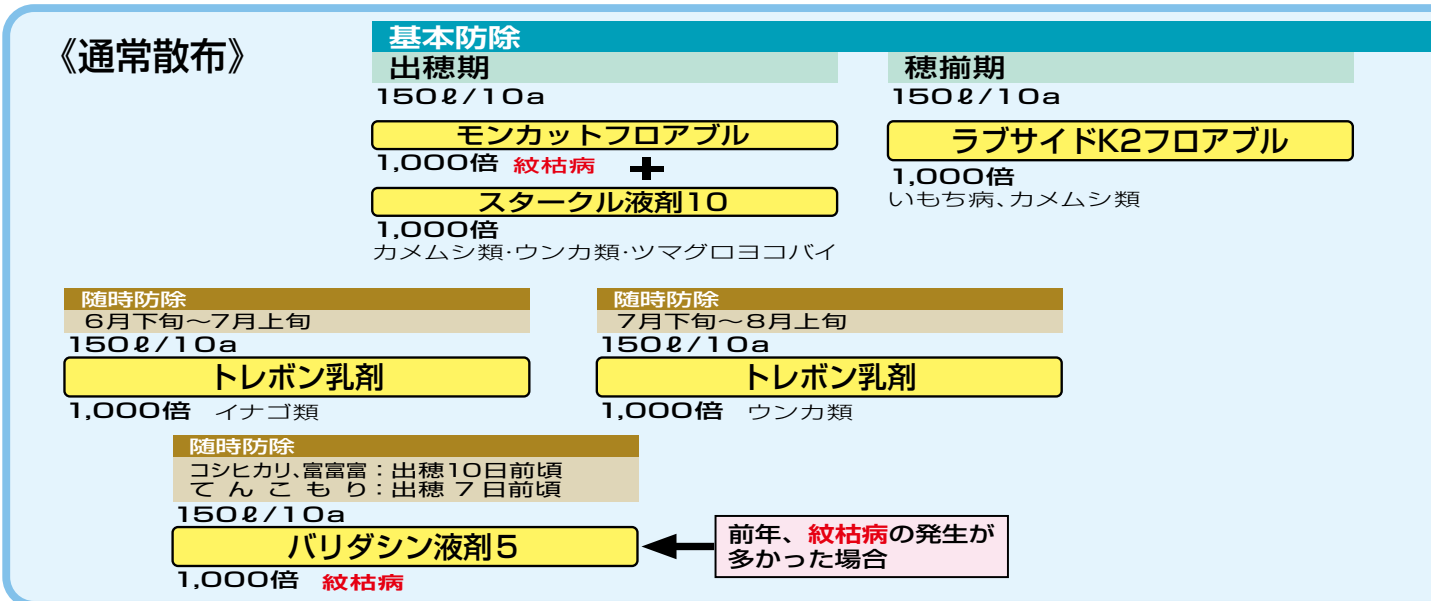
粉剤体系

（てんたかくは出穂期防除必須）

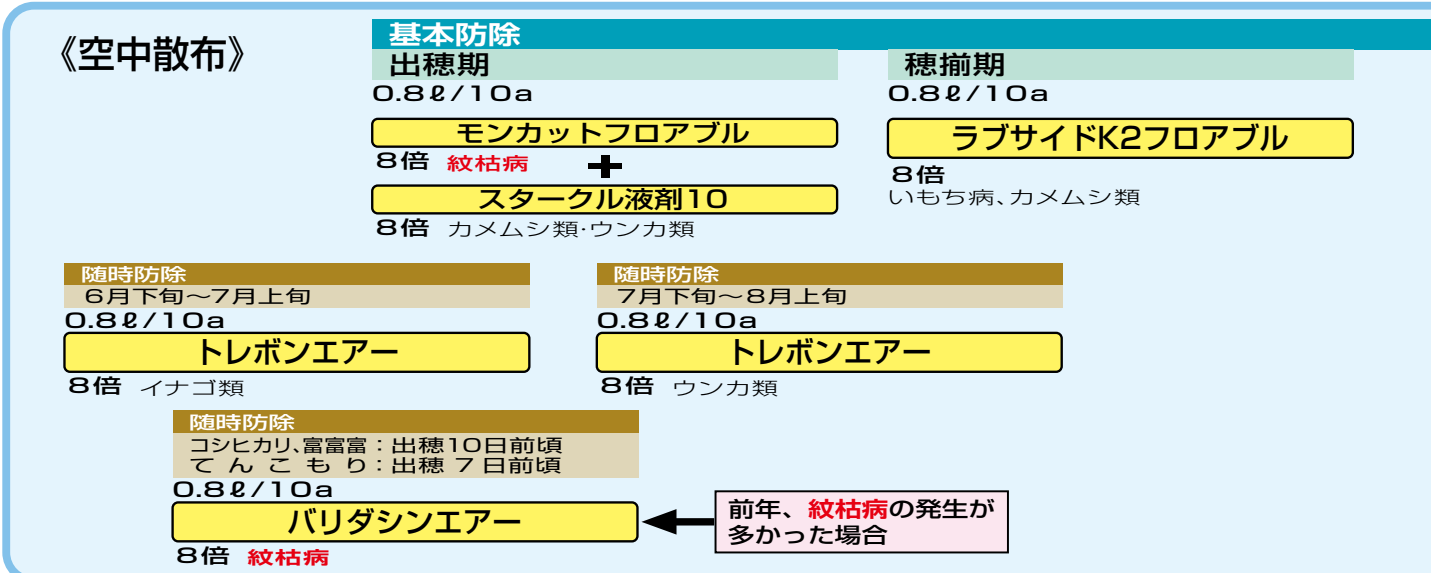


液剤体系

（てんたかくは出穂期防除必須）



《空中散布》



- 各品種の適期に防除を行い、規定量を確実に散布しましょう。
- 7月上旬に畦畔や雑草地の一斉草刈りを行い、早生の出穂前までに草刈りを終えましょう。
- 防除間隔は7日間を目安としましょう（10日間以上あけない）。
- 紋枯病の発生がみられた圃場は、必ず**紋枯病**対応薬剤を散布しましょう。
- 前年、斑点米カメムシ類による被害粒がみられた品種は、必ず3回防除を行いましょう。

傾穂期

スタークル粉剤DL

3kg/10a

カメムシ類・ウンカ類・ツマグロヨコバイ等

随時防除
傾穂期後

トレボン粉剤DL

3~4kg/10a カメムシ類



傾穂期

150ℓ/10a

スタークル液剤10

1,000倍

カメムシ類・ウンカ類・ツマグロヨコバイ

随時防除
傾穂期後

150ℓ/10a

トレボン乳剤

2,000倍 カメムシ類



紋枯病

傾穂期

0.8ℓ/10a

スタークル液剤10

8倍

カメムシ類・ウンカ類

随時防除
傾穂期後

0.8ℓ/10a

トレボンエアー

8倍 カメムシ類



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ



トゲシラホシカメムシ



クモヘリカメムシ

7 園芸作物の生産力の拡大・強化に向けて

～野菜を作って地域農業を活性化しよう～

主穀作経営体が、土地・施設の有効活用（不作付地、転作田や水稻育苗ハウスの活用など）や、労働力の有効活用（専従者などの年間を通じた作業確保、地域内の女性労働力の活用など）により、園芸品目を導入し経営の複合化に取り組んでいます。

アルプス農業協同組合では、労働力の有効活用や新たな収入確保により、経営を安定させるため、栽培技術が確立され、安定的な販路が確保されている、地域振興「白ネギ」、「さといも」、水田園芸拡大品目「たまねぎ」の園芸産地づくりをすすめ「農業者の所得増大」に取り組んでいます。

～新しい園芸品目を栽培開始、導入する場合のポイント～

- 1. 耕作地のポイント** 作付を予定している農地の用排水、土質、地形など
水稻育苗ハウスを活用する場合は、管理しやすい場所で、水質、水量、排水が良好なこと
- 2. 労働力のポイント** 新しい品目の担当者や労働時間、栽培期間など
担当者は、栽培講習会や先進地視察などに参加
- 3. 資金のポイント** 新しい機械や設備を導入する際にかかる経費などを検討
- 4. 販売のポイント** 販売先確保、販売価格などの情報収集

4つのポイントを確認したうえで、試験栽培、収益・販売の確認、経営計画作成、本格栽培に取り組みましょう。現在の経営状況を十分に把握して、資金投資はできるだけ控え、段階的に作付面積を拡大して「農業者の所得増大」を図りましょう。

たまねぎ



(1) 栽培のメリット

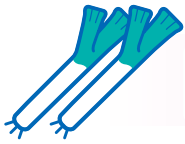
- ほとんどの作業が機械化され、野菜の中では労働時間がかなり少ない品目です。
- うね立て機、定植機、収穫機といった作業機械は、全農からレンタルできます。また、播種、収穫後の乾燥・選別作業は全農に委託でき、栽培開始時に大きな初期投資が不要です。
- 水稻との作業競合が少ない品目です。

(2) 作型および主な作業

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
	● 播種	▲ 本圃準備 ▲ 定植	▲ 除草剤散布					● 追肥	● 追肥		■ 収穫	

(3) 収入・経費の目安（面積：30a）

収入	959千円	単収4,500kg/10a×30a×単価71円/kg
経費	834千円	材料費285千円、出荷経費405千円、機械利用料144千円
所得	125千円	
時間あたり報酬	1,186円	作業時間35時間/10a



白ネギ

(1) 栽培のメリット

- 小さな面積で、大きな収入が得られます。
- 栽培規模に応じた機械が販売されており、作業の省力化が図れます。
- 水稲との作業競合をさけることができ、複数の作型を組み合わせることで、ほぼ周年的に出荷できます。
- 仲間が多く、産地体制（予冷施設等）も整っており初めてでも取り組みやすい作物です。
- 「富山しろねぎ」としてブランド化されており、販路が確立され、市場価格が安定している品目です。



(2) 作型および主な作業

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	●	●	▲	▲	■		■				
	播種		定植		防除 土寄せ		収穫・調製				

(3) 収入・経費の目安（面積：30a）

収入	2,625千円	販売収入（単収2,500kg／10a×30a×単価350円／kg）
経費	1,367千円	材料費672千円、出荷経費665千円、減価償却費30千円
所得	1,258千円	
時間あたり報酬	1,248円	作業時間320時間／10a



さといも

(1) 栽培のメリット

- 輪作や畦間かん水ができる水田での栽培に適した品目です。
- ほとんどの作業が機械化され、省力的に栽培できます。
- 株を鉄製コンテナで全農に出荷し、調製・選別作業を委託することも可能です。
- 株を作業場やパイプハウス等で貯蔵し、冬季の閑散期に出荷できます。
- 産地体制（調製選別施設等）が整っており初めてでも取り組みやすい作物です。



(2) 作型および主な作業

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	▲	▲			■		■				
	定植				かん水 防除		収穫・調製			貯蔵出荷	

(3) 収入・経費の目安（面積：30a）

収入	1,053千円	販売収入（単収1,300kg／10a×30a×単価270円／kg）
経費	587千円	材料費387千円、出荷経費200千円
所得	466千円	
時間あたり報酬	1,126円	作業時間138時間／10a

アルプス農業協同組合

◆ 相談窓口・連絡電話番号表 ◆

〒930-0314 富山県中新川郡上市町若杉3番地3
 TEL: 076-472-1222(代) FAX: 076-472-2130
 ホームページ: <https://ja-alps.jp/>

JAアルプス ☎ (076) 令和8年1月末現在

相談問合せ事項	部署名	電話番号	相談問合せ事項	部署名	電話番号
営農	営農部 営農企画課	472-5480	共済	金融共済部 共済課	472-5488
	営農部 販売施設課	472-5591		金融共済部 共済普及課	472-5589
	立山営農経済センター	462-9301	融資	金融共済部 融資資金課	472-5472
	上市営農経済センター	472-5519	事故	自動車事故受付	472-5488
	滑川営農経済センター	475-6900		サポートセンター	時間外事故受付 24時間 365日対応
農業資材の 配送・販売	経済部 農業資材課	472-5572	事故等	フリーダイヤル 0120-258-931	
	立山営農経済センター	463-5523		レッカー等	フリーダイヤル 0120-063-931
	上市営農経済センター	473-2766		農機具の販売・ 修理点検等	立山農機センター
	滑川営農経済センター	475-0071	滑川農機センター		475-1261
米の対応 籾の乾燥・調製	立山カントリーエレベーター	463-1143	自動車の販売・ 修理点検等	アルプス車両センター	475-1601
	滑川ライスセンター(秋のみ)	471-2140		オートパルアルプス	475-4563
	上市乾燥調製施設	472-3404	燃料 セルフスタンド	カーパーク立山給油所	463-0405
野菜の集荷・ 選別・加工	立山ネギ集出荷場	463-5194		カーパークつるぎ給油所	472-1224
	上市野菜集出荷場	473-0145		ユー・スポット滑川給油所	475-1551
	滑川野菜集出荷場	471-2144		ガス	JAホームアルプスガスセンター
農産物直売所	JAアルプス 味覚の郷	462-1012	支店名		電話番号
電気・住設	経済部 生活総合課	472-6666	たてやま支店		463-0560
生活指導・人間ドック	経済部 生活総合課	472-0581	上市支店		472-0580
御葬儀・御法要	アルプスホールゆうゆう館	473-9046	なめりかわ支店		475-0138
	フリーダイヤル 0120-456-897		舟橋ふれあいセンター		464-1113

農業関係の関係機関		電話番号	農業関係の関係機関		電話番号
立山町役場	農林課(農政係)	462-9973	富山農林 振興センター	滑川・上市班	444-0413
上市町役場	産業課(農政地籍班)	472-2503		立山班	444-0410
滑川市役所	農林課	475-1443	富山県農業 共済組合	富山地域農業共済センター	429-5006
舟橋村役場	生活環境課	464-1121(代)			



▲Instagram



▲HP